

(データヘルス計画別冊)

沖縄県後期高齢者医療広域連合
広島大学大学院医歯薬保健学研究院

後期高齢者医療制度
医療費等分析共同研究事業報告書

平成 28 年 3 月

はじめに

全国的に少子高齢化が進む中、沖縄県でも全国に比べて緩やかではありますが高齢化が進んでいます。後期高齢者医療制度の被保険者数も制度が開始された平成20年度末時点で111,334人でしたが、平成26年度末時点で134,251人と6年間で22,917人(約20.6%)増加しており、今後もしばらくは被保険者の増加が続いていきます。

沖縄県後期高齢者医療広域連合では被保険者の皆様が健康的で自立した日常生活を送ることができる「健康寿命」の延伸が重要と考えており、被保険者の健康保持・増進のために保健事業に取り組んでまいりました。

こうした状況の中で、平成26年3月31日に厚生労働省より高齢者の医療の確保に関する法律第125条第3項の規定に基づき「高齢者の医療の確保に関する法律に基づく保健事業の実施等に関する指針」が示されました。それを受けて平成27年3月に沖縄県後期高齢者医療広域連合保健事業実施計画(データヘルス計画)を策定したところです。

データヘルス計画の策定と並行して、後期高齢者医療制度における被保険者の疾病及び健康課題を、レセプト情報等を基に様々な見地から分析し、医療費等の状況を明らかにするために、国立大学法人広島大学にレセプト等のデータの分析を依頼し、その報告を基に本報告書をまとめました。

沖縄県後期高齢者医療広域連合では被保険者の皆様の健康保持・増進のために、今回の分析結果を基にしたより効果的な保健事業に取り組んでいきたいと思っておりますので、今後ともご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成28年3月

沖縄県後期高齢者医療広域連合
広域連合長 島袋 俊夫

共同研究分析者

○広島大学大学院医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 成人看護開発学

教授：森山 美知子

○山口大学経済学部大学院 経営学科

(広島大学大学院医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 成人看護開発学
慢性疾患マネジメント・プロジェクト研究センター)

特命教授：岩本 晋

○広島大学大学院医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 成人看護開発学

慢性疾患マネジメント・プロジェクト研究センター

特任助教：加澤 佳奈

データ分析協力

○株式会社 データホライゾン

編集

○沖縄県後期高齢者医療広域連合 事業課 保健事業グループ

第1章 外来・入院費の概要

1. 被保険者の状況（2014年2月時点）	1
2. 外来患者の状況（2014年2月時点）	
1) 性別年齢別にみた外来患者数	2
2) 性別年齢階級別にみた外来受療者の割合	3
3. 入院患者の状況（2014年2月時点）	
1) 性別年齢別にみた入院患者数	4
2) 性別年齢階級別にみた入院受療者の割合	5

第2章 医療費区分別分析

1. 受診者の概要	
1) 受診人数とレセプト枚数	6
2) 年齢別にみた患者一人当たりのレセプト枚数	7
3) レセプトの年間枚数にみる受診状況	8
4) 受診者の月次別変化	11
2. 診療報酬点数の分析	
1) 患者数と診療報酬点数の関係	12
2) 年齢別にみた診療点数	13
3) レセプトの種類別、年齢別にみた診療点数	14
4) 地域別にみた診療点数	16
3. 患者の転帰について	22

第3章 疾病コードに基づいた疾病構造の特徴

1. 入院医療費・外来医療費の比率	23
2. 入院医療費（主病名からみた医療費の分析）	
1) 主病名からみた医療費の分析方法	24
2) 入院医療費：合計金額からみた分析	24
3) 入院医療費：一人当たり医療費からみた分析	25
4) 入院医療費：患者数からみた分析	26
3. 外来医療費（医療費グルーピングからみた医療費の分析）	
1) 医療費グルーピングからみた医療費の分析方法	27
2) 外来医療費：合計金額からみた分析	27
3) 外来医療費：一人当たり医療費からみた分析	28
4) 外来医療費：患者数からみた分析	29
4. レセプト記載傷病名からみた医療費分析	
1) レセプト枚数と傷病名の数	30
2) レセプト傷病名ランキング：平均点数	34

第4章 医療費適正化の観点からみた分析

1. 高額医療費消費者に関する分析	35
2. 重複受診について	
1) 重複受診者のレセプト枚数発行状況	41
2) レセプトの種類別にみた、レセプト枚数の多い受診者	42
3) 重複受診者の詳細	49
3. 医療機関・処置に関する分析	
1) 県内・県外の医療機関入院状況	54
2) 高度救命医療の利用状況	54
3) 在宅医療の利用状況	56
4. 人工透析（血液透析）に関する分析	
1) 血液透析患者の概要（2014年2月時点）	57
2) 血液透析患者が持つ病名に関する分析	59
5. 心不全に関する分析	
1) 心不全患者の概要	60
2) 心不全患者の外来受療状況の分析	61
3) 心不全患者の入院受療状況の分析	62
6. ジェネリック薬品に関する分析	
1) ジェネリック薬品の使用割合	65
2) ジェネリック薬品に変更することで削減が予測される費用	65

第5章 まとめ

1. 沖縄県広域連合被保険者の特徴と対策	66
2. 今後の目標	66

第1章 外来・入院費の概要

1. 被保険者※1の状況(2014年2月時点)

2014年2月時点における沖縄県広域連合被保険者の状況を表1、図1に示します。

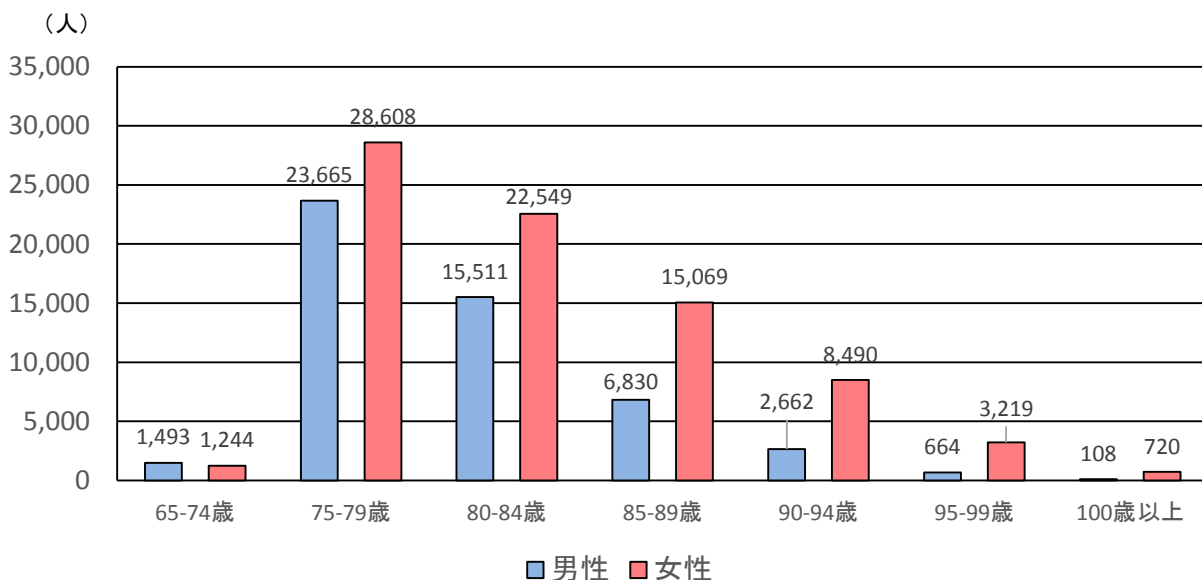
分析の対象となった被保険者数は総数 130,832 人で、これを性別にみると「男性」50,933 人(38.9%)、「女性」79,899 人(61.1%)でした。

年齢階級別にみると、「75-79歳」が 52,273 人(40.0%)と最も多く、次いで「80-84歳」38,060 人(29.1%)、「85-89歳」21,889 人(16.7%)の順でした。

表1 性別年齢階級別にみた被保険者数

	被保険者数(人)			構成割合(%)		
	男性	女性	総数	男性	女性	総数
65-74歳	1,493	1,244	2,737	2.9	1.6	2.1
75-79歳	23,665	28,608	52,273	46.5	35.8	40.0
80-84歳	15,511	22,549	38,060	30.5	28.2	29.1
85-89歳	6,830	15,069	21,899	13.4	18.9	16.7
90-94歳	2,662	8,490	11,152	5.2	10.6	8.5
95-99歳	664	3,219	3,883	1.3	4.0	3.0
100歳-	108	720	828	0.2	0.9	0.6
総数	50,933	79,899	130,832	100.0	100.0	100.0

図1 性別年齢階級別にみた被保険者数の度数分布



※1 75歳以上の方及び一定の障がいがある65～74歳の方が後期高齢者医療制度の被保険者となります。

2. 外来患者の状況(2014年2月時点)

1) 性別年齢別にみた外来患者数※2

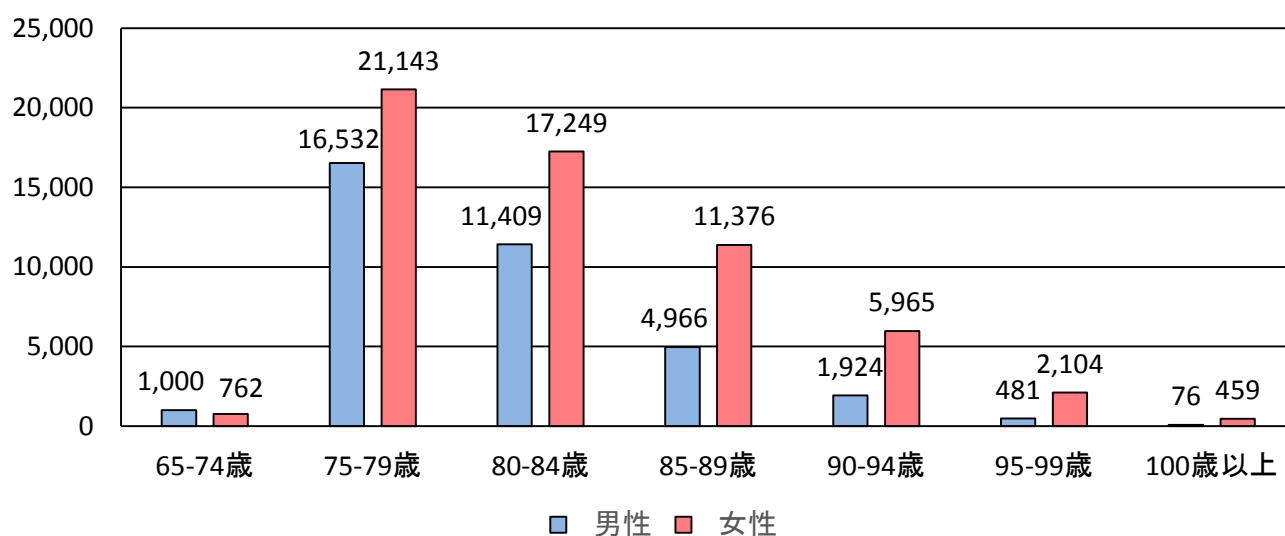
2014年2月の外来患者数(実数)は95,446人で、これを性別にみると、「男性」36,388人(38.1%)、「女性」59,058人(61.9%)、年齢階級別にみると、「75-79歳」が37,675人(39.5%)と最も多く、次いで「80-84歳」28,658人(30.0%)、「85-89歳」16,342人(17.1%)の順でした。

表2 性別年齢階級別にみた外来患者数および外来受療した人の割合

	総数	65-74歳	75-79歳	80-84歳	85-89歳	90-94歳	95-99歳	100歳以上
①被保険者数(人)								
総数	130,832	2,737	52,273	38,060	21,899	11,152	3,883	828
男性	50,933	1,493	23,665	15,511	6,830	2,662	664	108
女性	79,899	1,244	28,608	22,549	15,069	8,490	3,219	720
②外来患者数(人)								
総数	95,446	1,762	37,675	28,658	16,342	7,889	2,585	535
男性	36,388	1,000	16,532	11,409	4,966	1,924	481	76
女性	59,058	762	21,143	17,249	11,376	5,965	2,104	459
③外来患者構成割合(%)								
総数	100.0	1.8	39.5	30.0	17.1	8.3	2.7	0.6
男性	100.0	2.7	45.4	31.4	13.6	5.3	1.3	0.2
女性	100.0	1.3	35.8	29.2	19.3	10.1	3.6	0.8
④外来受診者の割合(%)								
総数	73.0	64.4	72.1	75.3	74.6	70.7	66.6	64.6
男性	71.4	67.0	69.9	73.6	72.7	72.3	72.4	70.4
女性	73.9	61.3	73.9	76.5	75.5	70.3	65.4	63.8

図2 性別年齢階級別にみた外来患者数

(人)



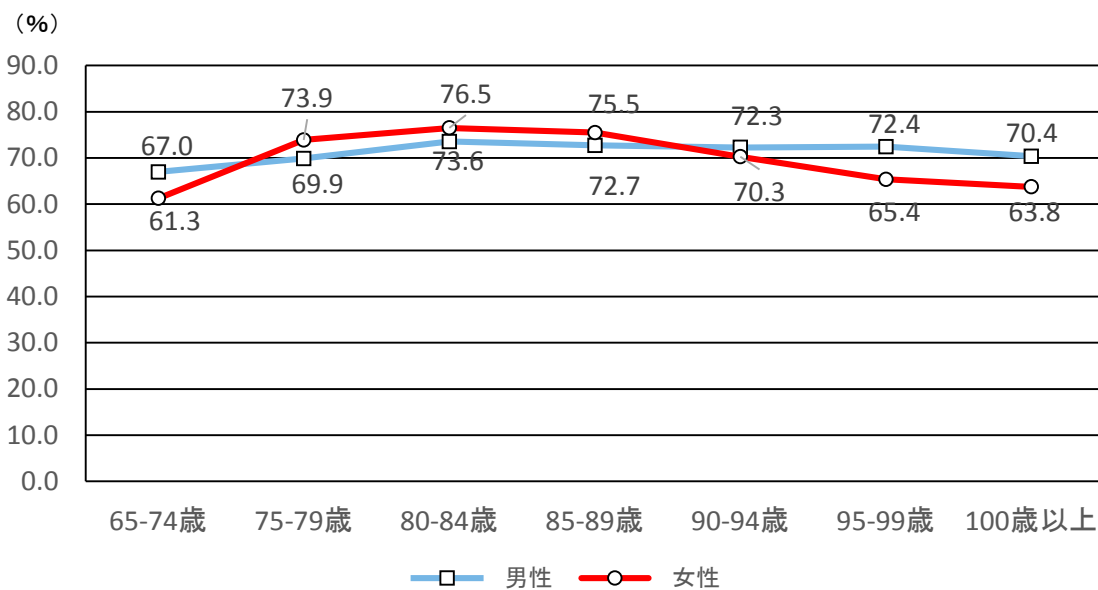
※2 ここでの患者数とは、2014年2月中に1回以上外来に通院した者の人数となっています。

2) 性別年齢階級別にみた外来受診者の割合※3

2014年2月の外来を受診した人の割合は73.0%で、これを性別にみると「男性」71.4%、「女性」73.9%でした。

これを性別年齢階級別にみると、男性では「80-84歳」が73.6%と最も高く、次いで「85-89歳」72.7%、「90-94歳」72.3%の順で、「65-74歳」67.0%が最も低くなっています。また、女性でも「80-84歳」が76.5%と最も高く、次いで「85-89歳」75.5%、「75-79歳」73.9%の順で、「65-74歳」が61.3%と最も低くなっています。

図3 性別年齢階級別にみた外来受診者の割合



※3 ここでの性別年齢階級別外来受診者の割合とは、2014年2月時点の性別年齢階級別被保険者に占める性別年齢階級別外来患者数の割合となっています。

3. 入院患者の状況(2014年2月時点)

1) 性別年齢別にみた入院患者数

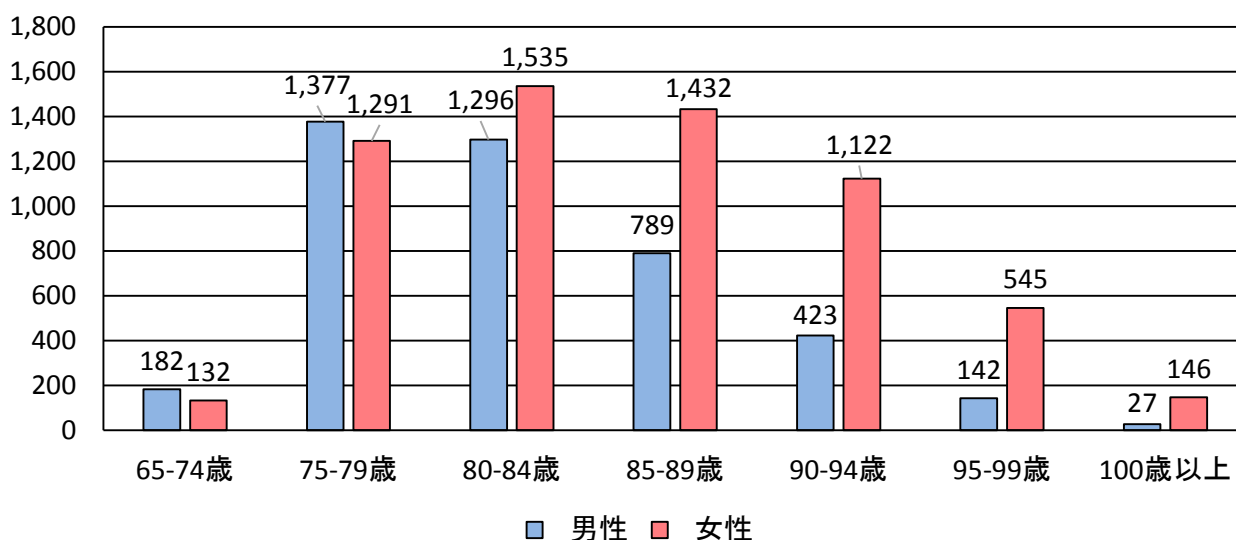
2014年2月の入院患者数(実数)は10,439人で、これを性別にみると、「男性」4,236人(40.6%)、「女性」6,203人(59.4%)、年齢階級別にみると、「80-84歳」が2,831人(27.1%)と最も多く、次いで「75-79歳」2,668人(25.6%)、「85-89歳」2,221人(21.3%)の順でした。

表3 性別年齢階級別にみた入院患者数および入院受診した人の割合

	総数	65-74歳	75-79歳	80-84歳	85-89歳	90-94歳	95-99歳	100歳以上
①被保険者数(人)								
総数	130,832	2,737	52,273	38,060	21,899	11,152	3,883	828
男性	50,933	1,493	23,665	15,511	6,830	2,662	664	108
女性	79,899	1,244	28,608	22,549	15,069	8,490	3,219	720
②入院患者数(人)								
総数	10,439	314	2,668	2,831	2,221	1,545	687	173
男性	4,236	182	1,377	1,296	789	423	142	27
女性	6,203	132	1,291	1,535	1,432	1,122	545	146
③入院患者構成割合(%)								
総数	100.0	3.0	25.6	27.1	21.3	14.8	6.6	1.7
男性	100.0	4.3	32.5	30.6	18.6	10.0	3.4	0.6
女性	100.0	2.1	20.8	24.7	23.1	18.1	8.8	2.4
④入院受診者の割合(%)								
総数	8.0	11.5	5.1	7.4	10.1	13.9	17.7	20.9
男性	8.3	12.2	5.8	8.4	11.6	15.9	21.4	25.0
女性	7.8	10.6	4.5	6.8	9.5	13.2	16.9	20.3

図4 性別年齢階級別にみた入院患者数

(人)

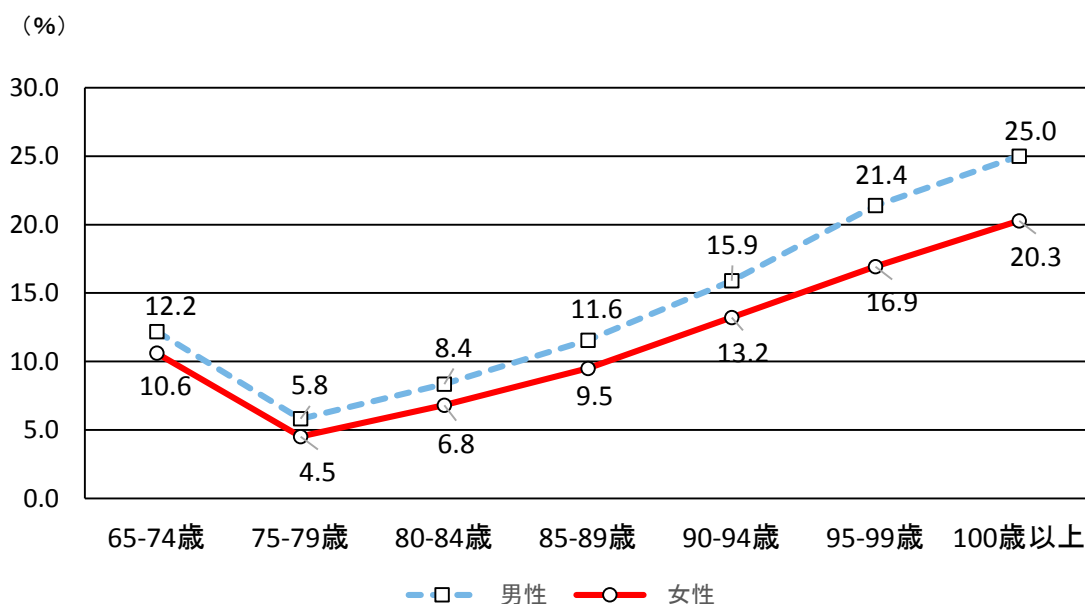


2) 性別年齢階級別にみた入院受診者の割合

2014年2月の入院受診した人の割合は8.0%で、これを性別にみると「男性」8.3%、「女性」7.8%でした。

これを性別年齢階級別にみると、男性では「100歳以上」が25.0%と最も高く、次いで「95-99歳」21.4%、「90-94歳」15.9%の順で、「75-79歳」5.8%が最も低くなっています。また、女性でも「100歳以上」が20.3%と最も高く、次いで「95-99歳」16.9%、「90-94歳」13.2%の順で、「75-79歳」が4.5%と最も低くなっています。

図5 性別年齢階級別にみた入院受診者の割合



以上のことから、年齢が高くなるにつれ、外来受診から入院受診へ移行していると考えられます。

第2章 医療費区別分析

1. 受診者の概要

1) 受診人数とレセプト※4枚数

2013年3月～2014年2月までに後期高齢者医療制度を利用して医療機関を受診した患者人数は、男性51,135人、女性79,932人、男女合計131,067人でした。

この約13万人の受診者に対して発行されたレセプトの種類別枚数は合計3,276,978枚で、外来1,863,083枚、調剤1,279,912枚そして入院133,983枚でした※5。

レセプトの全体の受診者一人当たりのレセプト枚数は25枚で、データが1年間のデータであることから、1ヶ月間あたりおよそ2枚のレセプトが発行されていることとなります。これは、月1回外来を受診し、調剤でのレセプトと合わせると2枚となるので、標準的な被保険者は月に1度のペースで外来を受診しているものと考えられます。

表4 沖縄県における後期高齢者医療の受診者についての概要

	レセプト種類	患者人数 (人)	レセプト枚数 (枚)	レセプト枚数 ／患者人数
男性	外来	49,411	1,154,494	23.4
	調剤	44,033	797,518	18.1
	入院	16,636	78,972	4.7
	合計	51,135	2,030,984	39.7
女性	外来	77,556	708,589	9.1
	調剤	69,201	482,394	7.0
	入院	23,555	55,011	2.3
	合計	79,932	1,245,994	15.6
全体	外来	126,967	1,863,083	14.7
	調剤	113,234	1,279,912	11.3
	入院	40,191	133,983	3.3
	合計	131,067	3,276,978	25.0

※4 レセプトとは、患者が受けた診療について、医療機関が保険者(市町村や広域連合、健康保険組合等)に請求する医療報酬の明細書です。レセプトは、受診した医療機関の1ヶ月の診療に基づく医療報酬の書類なので、例えば、ある月に1ヶ所の診療所を受診すれば1枚ですが、複数箇所を受診すると、その箇所数分のレセプトが発行されます。さらに、薬局においてもレセプトが発行されます。入院の場合、例えば、月末から翌月にかけて入院すると、2ヶ月分2枚のレセプトが発行されます。

※5 今回の医療費分析には歯科のレセプトは含まれていません。

2) 年齢別にみた患者一人当たりのレセプト枚数

年齢別の受診者の人数とレセプト枚数を集計し、受診者の年齢別人数を示します(図6)。さらに、年齢別の患者人数によりレセプト枚数に違いがあるので年齢別に患者一人当たりレセプト枚数を図示しました(図7)。受診者の平均年齢を計算した結果、沖縄県の後期患者は男性が80.6歳、女性が82.6歳と女性が2歳年長でした。

図6 受診者の年齢別人数

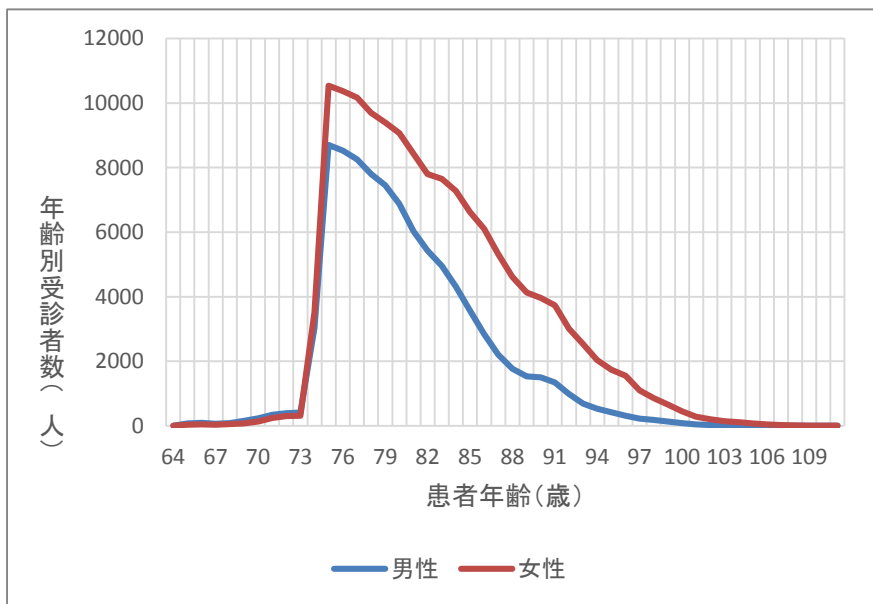
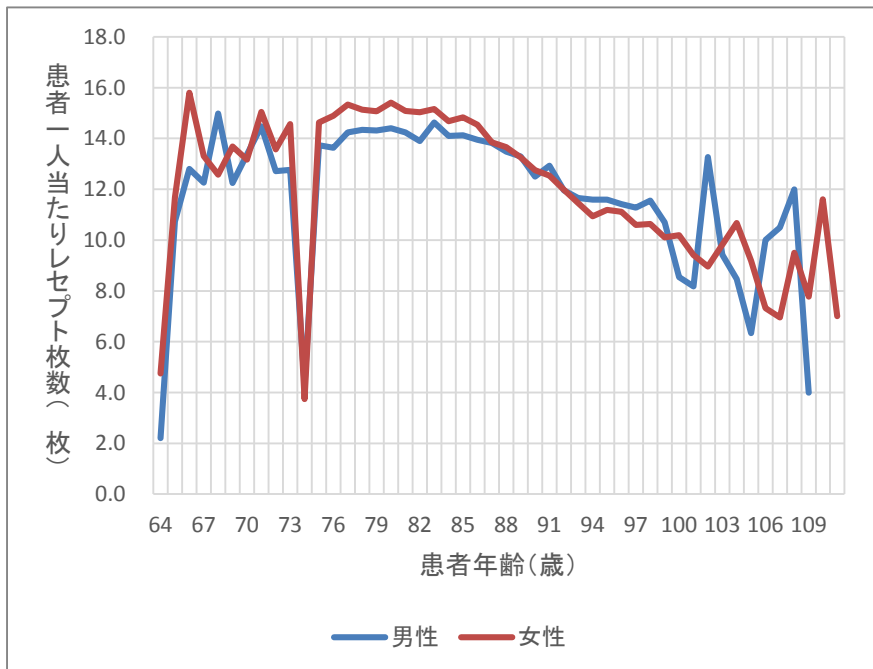


図7 年齢別の一人当たりレセプト枚数



なお、74~75歳で急な低下が起こっているのは、年齢到達により他の医療保険制度から年の途中で後期高齢者医療制度に切り替わるためです。

3)レセプトの年間枚数にみる受診状況

(ア)入院レセプト枚数から見る受診状況

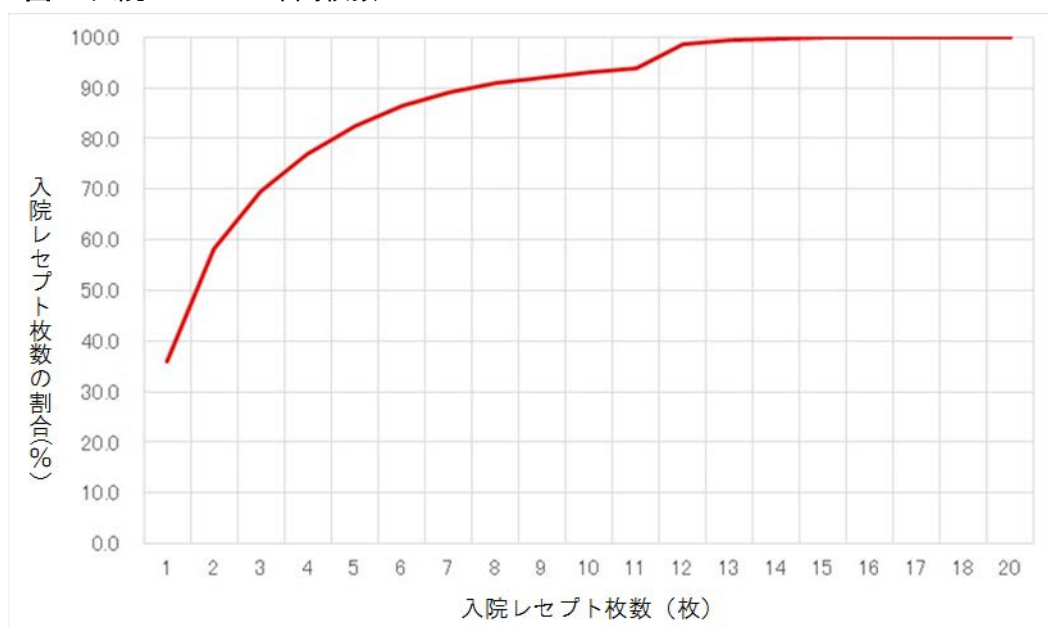
後期高齢者医療制度における患者の1年(12ヶ月)間における入院レセプト枚数の累積割合をパレート図で示しました。

入院レセプト枚数は、年間1枚が14,494人(36.1%)、年間12枚以上が2,423人(1.2%)最高は20枚で、15枚以上が83人いました。

表5 入院レセプトの発行状況

入院レセプト枚数	患者人数(人)	割合(%)	累積割合(%)
1	14,494	36.1	36.1
2	8,870	22.1	58.1
3	4,545	11.3	69.4
4	3,036	7.6	77.0
5	2,208	5.5	82.5
6	1,604	4.0	86.5
7	1,051	2.6	89.1
8	731	1.8	90.9
9	496	1.2	92.1
10	368	0.9	93.1
11	365	0.9	94.0
12	1,923	4.8	98.8
13	276	0.7	99.4
14	141	0.4	99.8
15	44	0.1	99.9
16	26	0.1	100.0
17	8	0.0	100.0
18	4	0.0	100.0
20	1	0.0	100.0

図8 入院レセプトの年間枚数



(イ) 外来レセプト枚数から見る受診状況

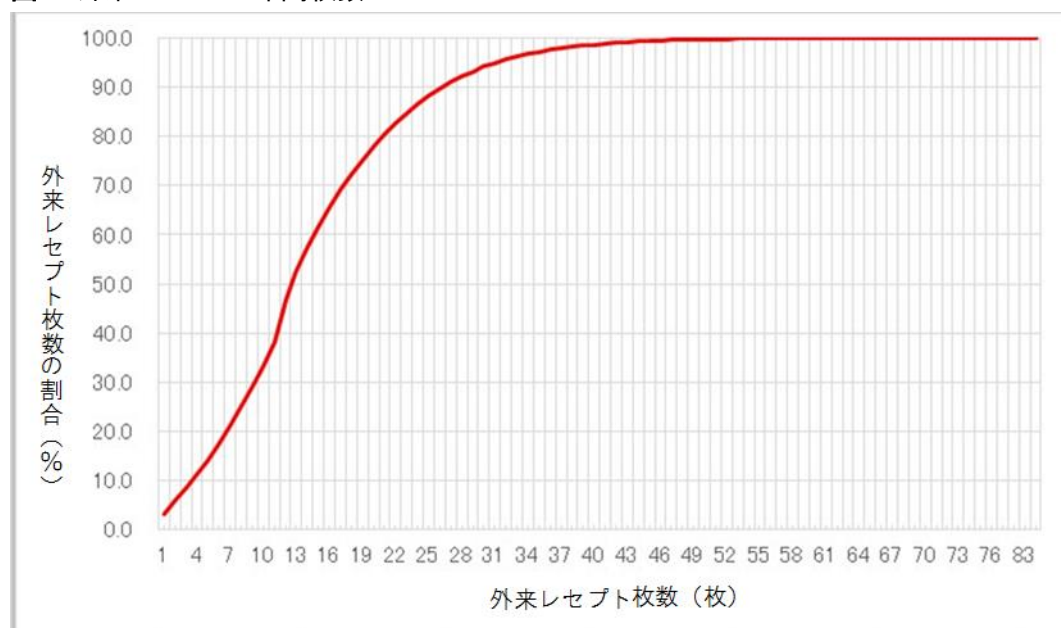
次に、後期高齢者医療制度における患者の1年(12ヶ月)間における外来受診医療機関数をレセプト枚数で判断し集計しました。その結果、①月1回以上のペースで医療機関を受診していると推察される被保険者(年12枚以上)が61.7%、②月に2ヶ所以上の複数の医療機関を受診していると推察される被保険者(年24枚以上)が15.4%いました。

表6 外来レセプトの発行状況

外来レセプト枚数	患者人数(人)	割合(%)	累積割合(%)
1	4,194	3.3	3.3
2	3,607	2.8	6.1
3	3,212	2.5	8.7
4	3,296	2.6	11.3
5	3,400	2.7	13.9
6	4,461	3.5	17.5
7	4,739	3.7	21.2
8	4,814	3.8	25.0
9	5,065	4.0	29.0
10	5,446	4.3	33.3
11	6,367	5.0	38.3
12	10,668	8.4	46.7
13	7,367	5.8	52.5
14	6,251	4.9	57.4
15	5,400	4.3	61.6
16	4,874	3.8	65.5
17	4,577	3.6	69.1
18	4,172	3.3	72.4
19	3,723	2.9	75.3
20	3,311	2.6	77.9
21	3,109	2.4	80.4
22	2,769	2.2	82.5
23	2,643	2.1	84.6
24	2,579	2.0	86.7
25枚以上	-	13.3	100



図9 外来レセプトの年間枚数



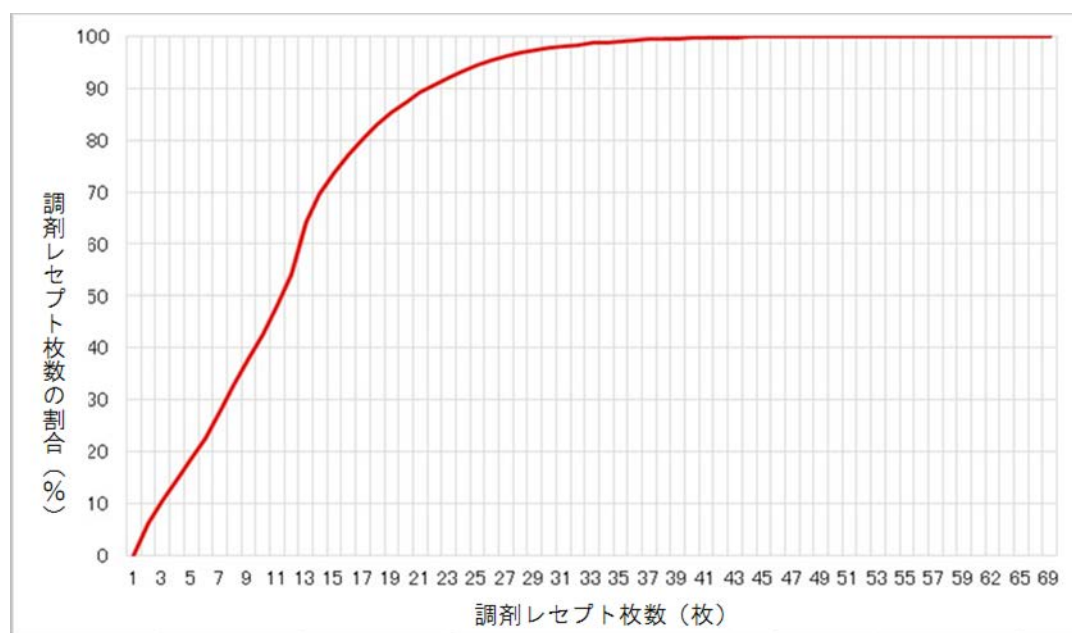
(ウ) 調剤レセプト枚数から見る受診状況

調剤レセプトの枚数は、1年間のうち1枚のみが 6,823 人(5.4%)で、最高枚数は 66 枚、年間 60 枚以上、すなわち月平均 5 枚以上発行されている患者が7人いました。半数強の患者は、年間 12 枚以下でした。

表7 調剤レセプトの発行状況 年間 24 枚まで

調剤レセプト枚数	患者人数(人)	割合(%)	累積割合(%)
1	6,823	5.4	5.4
2	5,267	4.1	9.5
3	4,474	3.5	13.0
4	4,507	3.5	16.6
5	4,587	3.6	20.2
6	5,888	4.6	24.8
7	5,719	4.5	29.4
8	5,492	4.3	33.7
9	5,534	4.4	38.0
10	5,969	4.7	42.7
11	6,809	5.4	48.1
12	11,329	8.9	57.0
13	6,148	4.8	61.9
14	4,747	3.7	65.6
15	3,981	3.1	68.7
16	3,404	2.7	71.4
17	3,068	2.4	73.8
18	2,684	2.1	75.9
19	2,254	1.8	77.7
20	1,991	1.6	79.3
21	1,755	1.4	80.7
22	1,555	1.2	81.9
23	1,442	1.1	83.0
24	1,307	1.0	84.1

図 10 調剤レセプトの年間枚数



4) 受診者の月次別変化

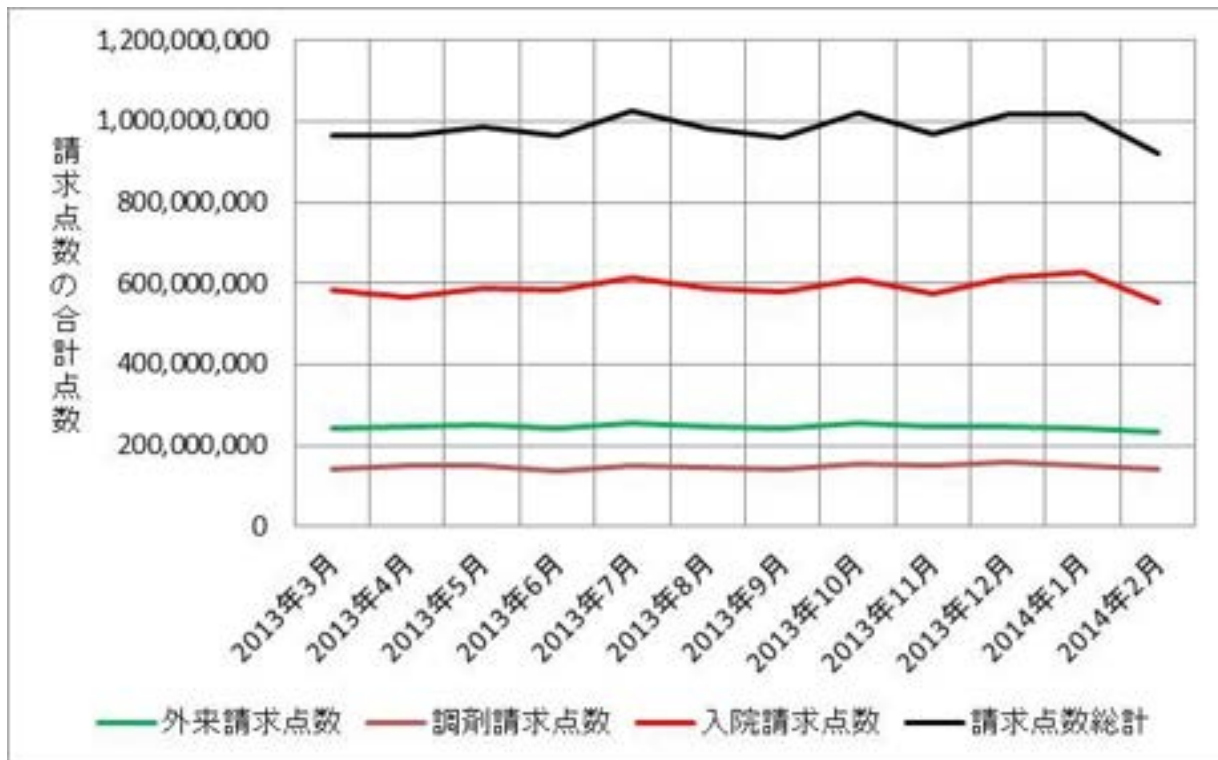
後期高齢者の受診状況をレセプトの発行された月次別に比較しましたが、月次別にはほとんど差が無く、季節による疾病の動向が患者数や請求点数に強く影響を及ぼしていないと考えられます。これは沖縄県の気象が比較的安定しているためだと考えられます。

表8 レセプト種類別に見た請求点数の月次推移

年月	外来請求点数	調剤請求点数	入院請求点数	請求点数総計
2013年3月	242,079,349	141,967,958	581,742,469	965,789,776
2013年4月	247,621,296	149,182,558	566,553,065	963,356,919
2013年5月	249,665,869	148,554,771	586,389,643	984,610,283
2013年6月	242,245,583	138,353,696	582,839,763	963,439,042
2013年7月	256,561,001	151,818,685	616,085,164	1,024,464,850
2013年8月	245,292,974	146,658,033	588,885,869	980,836,876
2013年9月	241,359,203	141,929,766	578,689,199	961,978,168
2013年10月	256,468,973	154,437,155	609,693,051	1,020,599,179
2013年11月	246,007,920	148,179,929	576,794,576	970,982,425
2013年12月	246,759,408	157,251,577	614,809,158	1,018,820,143
2014年1月	241,693,086	148,168,588	625,711,434	1,015,573,108
2014年2月	231,333,414	140,055,483	550,995,356	922,384,253
総計	2,947,088,076	1,766,558,199	7,079,188,747	11,792,835,022

※1点=10円

図11 後期医療レセプト種類別に見た合計請求点数の月次推移



2. 診療報酬点数の分析

1) 患者数と診療報酬点数の関係

後期医療制度における全受療者と、全レセプト上に記入された診療報酬請求点数合計値の関係を示す表9を図式化した医療費のパレート図を示します(図12)。このパレート図は後期高齢者医療の受療者をレセプトにある医療費請求点数の大きい人から降順に並べて、累積点数を算出し、その点数が全体の総計点数に占める割合を%で計算して、同時に人数の累計が全体の人数に占める割合との関係を図示したものです。

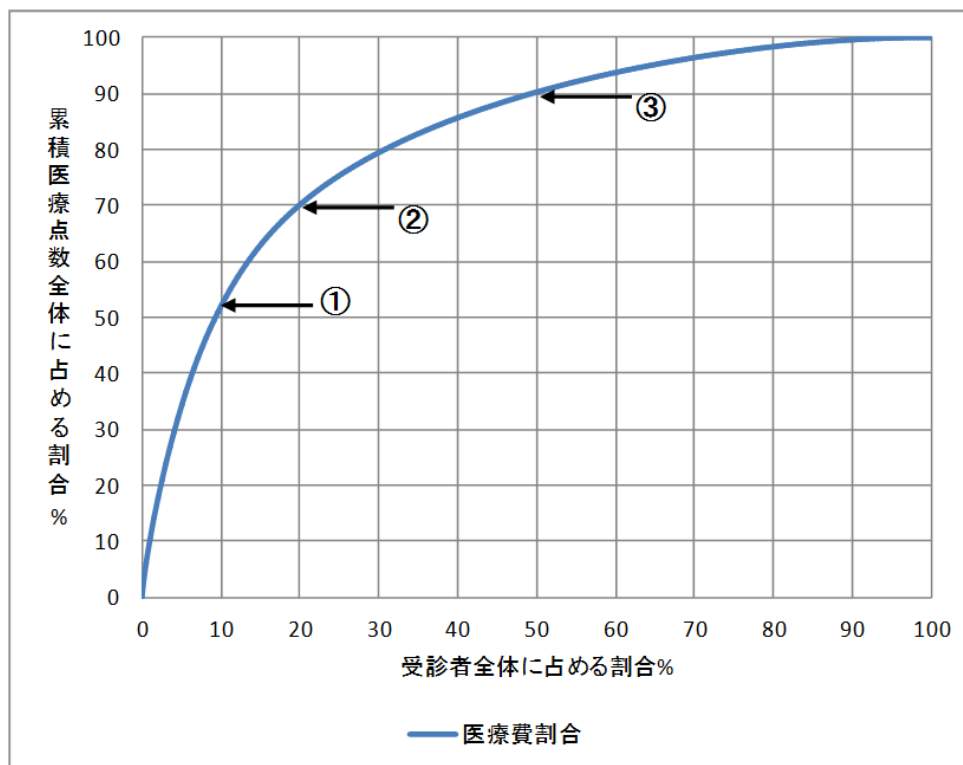
その結果、①上位1割の受療者が約50%の医療費を、②上位2割が約70%の医療費を、③上位5割が約90%の医療費を使用し、そして残りの5割の受療者は全体で10%の医療費だけしか消費していないことが明確になりました。つまり、高額の治療を受けている少数の受療者が医療費の大部分を消費していることがわかります。

表9 受療者数と診療報酬点数の関係

※1点=10円

診療報酬高額順位	総人数に対する 累積割合(%)	累積医療費(点)	医療費合計に対する 累積割合(%)
第1～13,106位	10.0	6,126,911,006	52.0
第13,107～26,213位	20.0	8,267,548,628	70.1
第26,214～39,320位	30.0	9,336,967,993	79.4
第39,321～52,426位	40.0	10,100,440,735	85.6
第52,427～65,533位	50.0	10,641,389,199	90.2
総人数 131,067人	100.0	11,792,835,022	100.0

図12 「表9」を図式化したパレート図



2) 年齢別にみた診療点数

性別・年齢別に見た診療報酬点数を図 13 に示します。後期高齢者医療制度は原則 75 歳以上を対象とすることから、75 歳未満の被保険者は一定の障がいの原因として後期高齢者医療者制度を利用する者なのでその数は少なくなっています。

図 13 受診者の性別、年齢別にみた請求点数の合計値

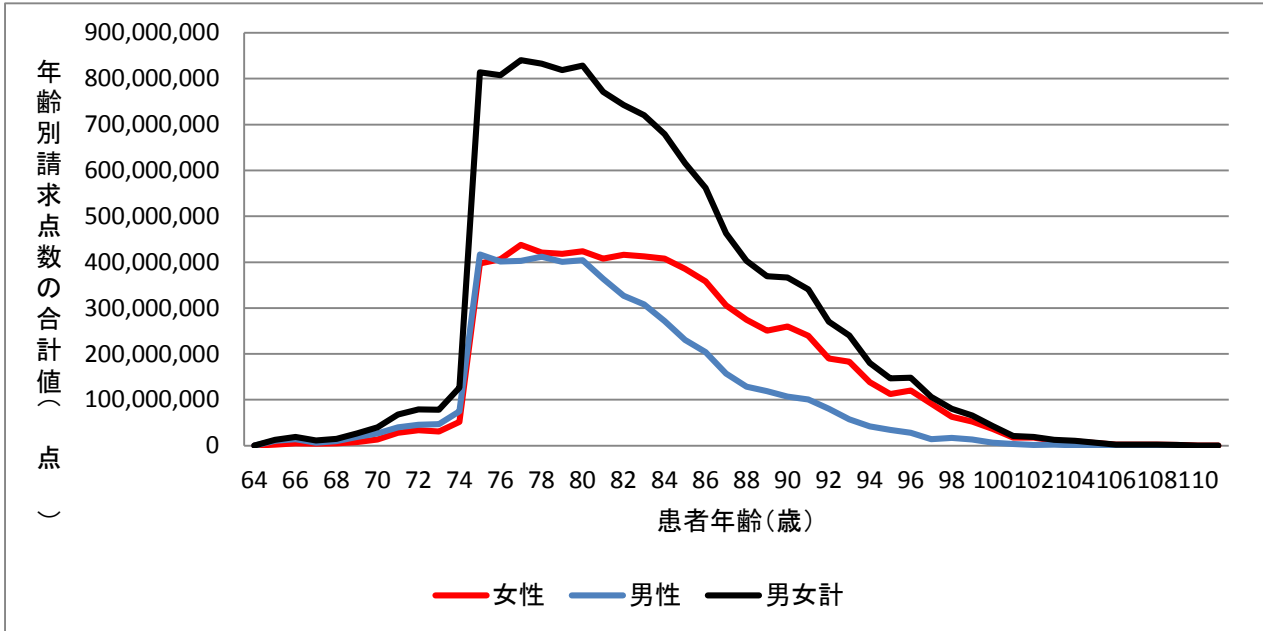
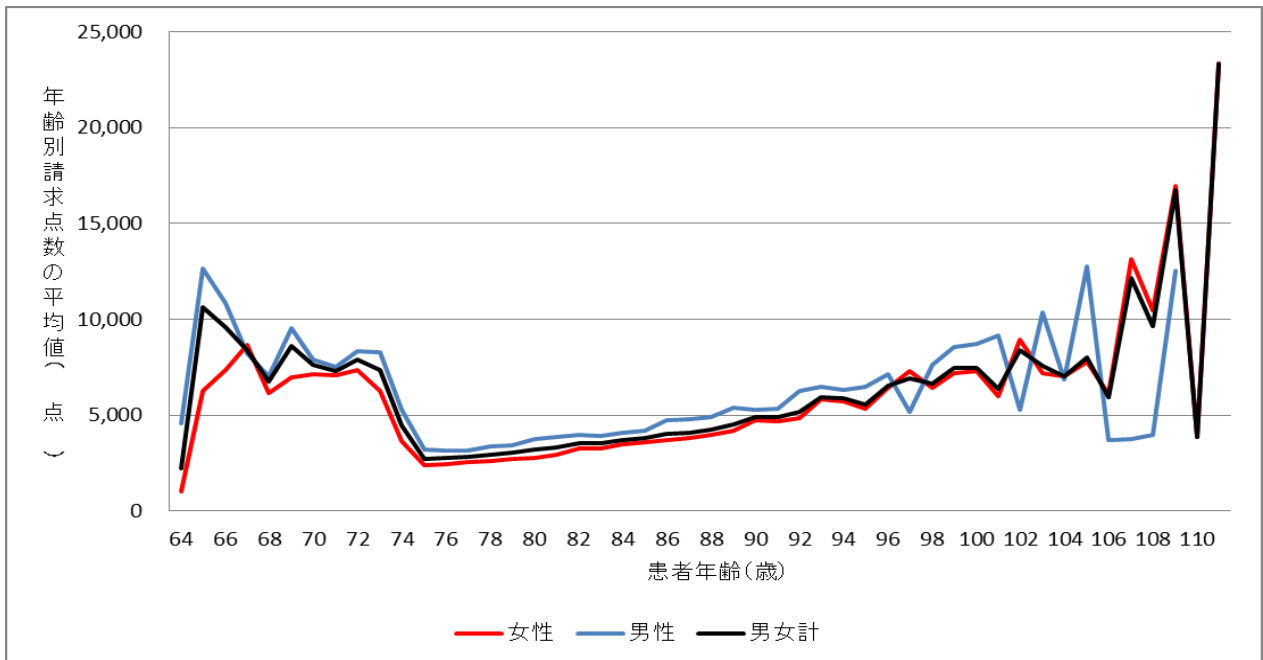


図 14 は性別・年齢別に見た後期高齢者医療制度における請求点数の平均値です。年齢 74 歳以下は対象者が少なく、一定の障がいの原因としているため平均値は高くなっています。

75 歳から 105 歳までは点数は右肩上がり増加し、それ以上の 100 歳を過ぎると受診者も少ないため平均値が大きくぶれています。

図 14 受診者の性別、年齢別にみた請求点数の平均値



3)レセプトの種類別、年齢別にみた診療点数

レセプトの種類別（外来・調剤・入院）、年齢別の診療報酬点数合計値と平均値を表示したのが図 15、図 16 です。入院による点数合計値は外来や調剤の点数の合計値よりも遙かに多く、平均値においても同様になっています。

図 15 年齢別、レセプト種類別にみた請求点数の合計値

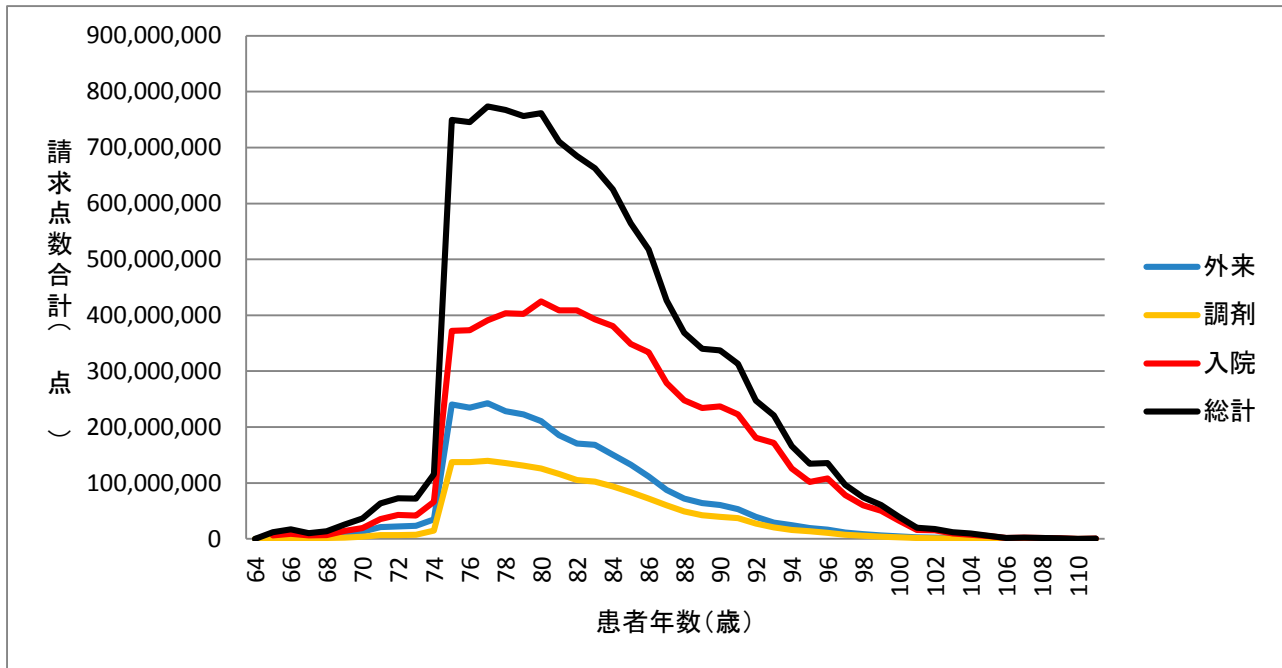
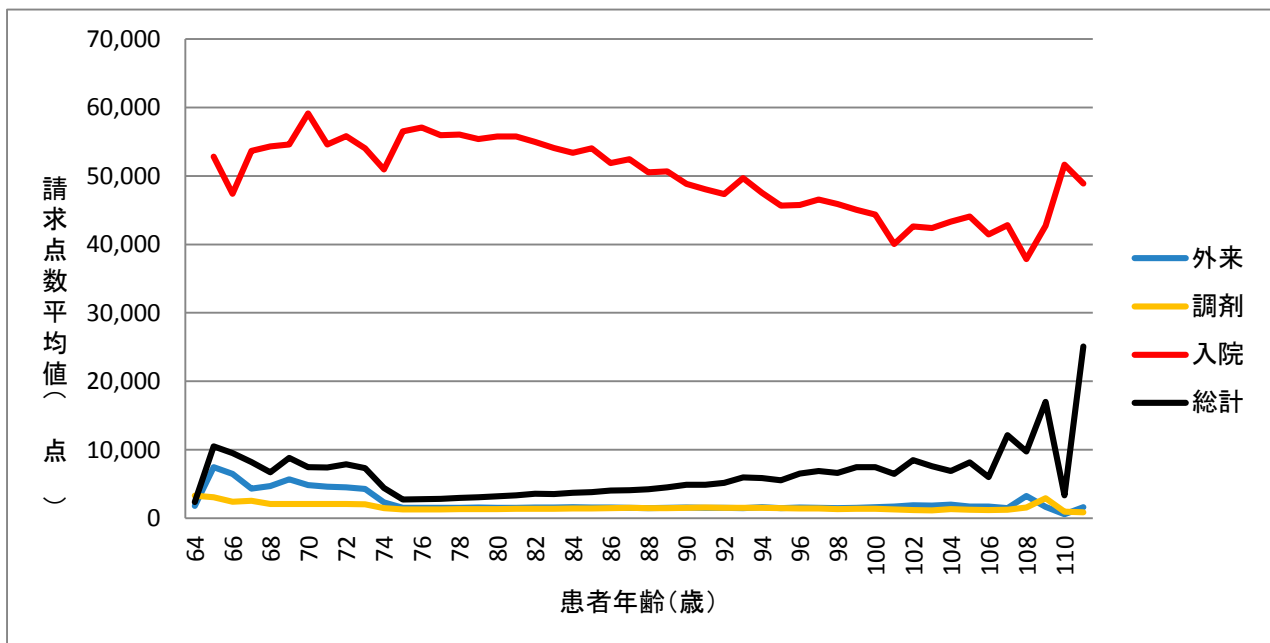
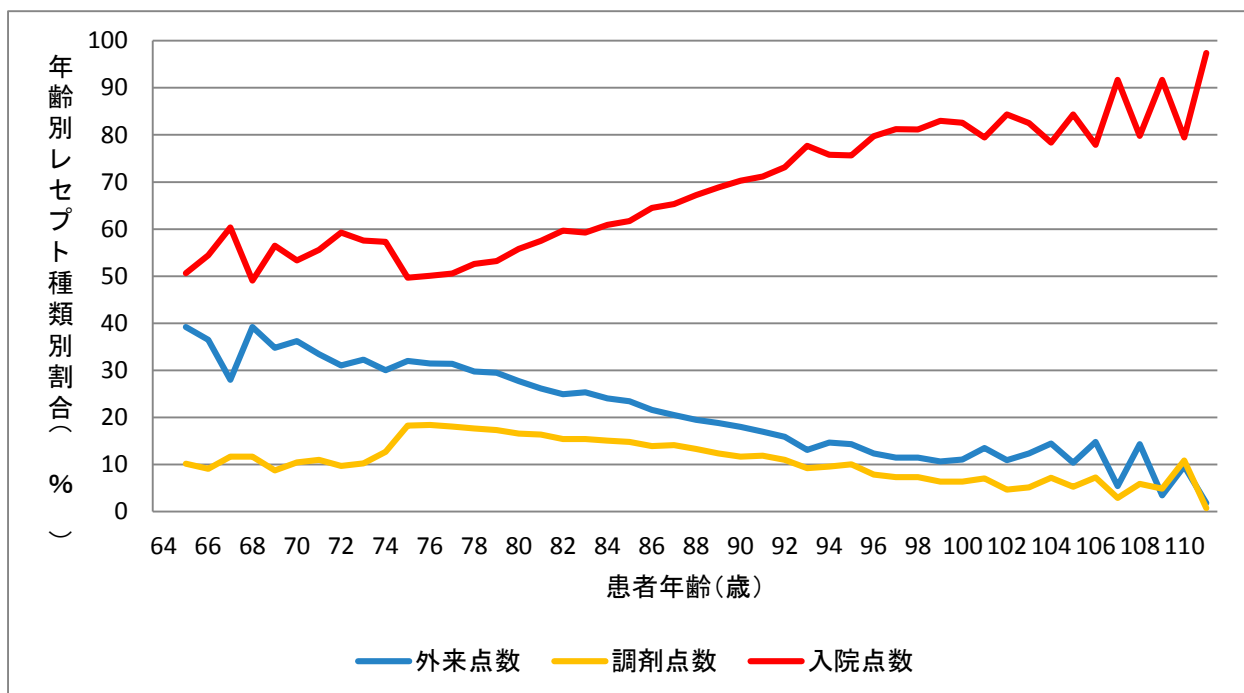


図 16 後期医療の年齢別、レセプト種類別にみた請求点数の平均値



後期高齢者の初期の段階から 100 歳にかけて入院医療費(平均点数)が徐々に減少し始めるのに対して、100 歳を超えると被保険者数は減少しますが、入院医療費(平均点数)の増加が観察されます。一方で、外来や調剤(入院中の薬剤費は、入院点数に含まれます)の医療費は横ばいで推移しています。

図 17 後期医療の請求点数合計値にみる年齢別、レセプト種類別割合



後期高齢者医療制度では、年齢とともに外来・調剤のレセプト点数の割合が下がるのに対して、入院点数の割合が年齢の高まりとともに増加していることがわかります。

年齢とともに増加していく入院の割合を減少させていくことが今後の課題となります。

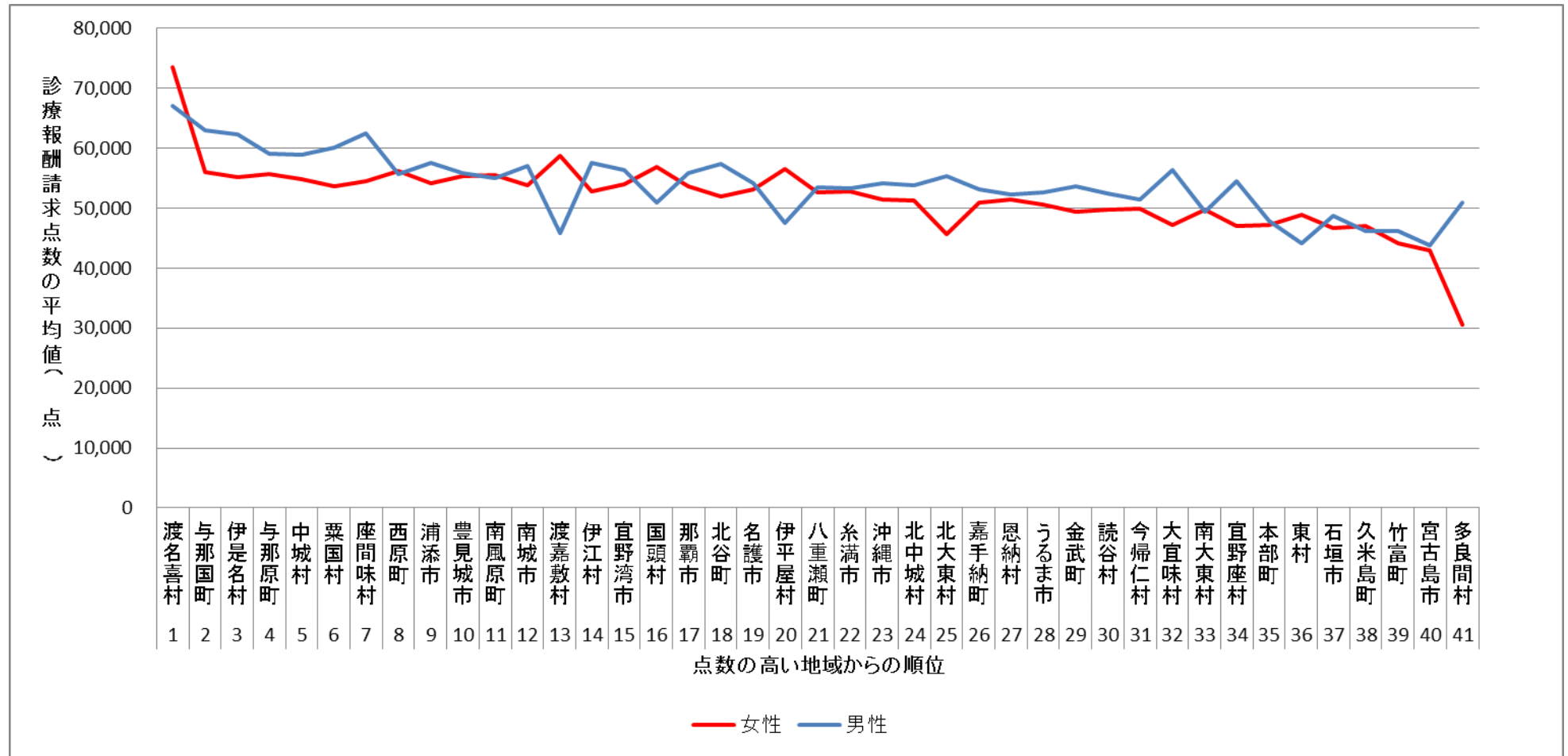
4) 地域別にみた診療点数

地域別、性別にみた入院、外来、調剤点数について示します(総請求点数/患者数)。入院平均点数では、第1位と第41位の地域の間で、男女平均請求点数に約28,000点の差がありました。

表10 地域別、性別の入院平均点数(患者一人あたり)

順位	地域	請求点数(点)			請求金額(円)		
		女性	男性	男女平均	女性	男性	男女平均
1	渡名喜村	73,518	67,037	71,155	735,180	670,370	711,550
2	与那国町	55,975	62,944	59,133	559,750	629,440	591,330
3	伊是名村	55,216	62,364	57,672	552,160	623,640	576,720
4	与那原町	55,673	59,055	57,119	556,730	590,550	571,190
5	中城村	54,773	58,902	56,712	547,730	589,020	567,120
6	粟国村	53,714	60,101	56,499	537,140	601,010	564,990
7	座間味村	54,552	62,392	56,085	545,520	623,920	560,850
8	西原町	56,210	55,651	55,969	562,100	556,510	559,690
9	浦添市	54,148	57,469	55,663	541,480	574,690	556,630
10	豊見城市	55,292	55,860	55,551	552,920	558,600	555,510
11	南風原町	55,482	55,043	55,293	554,820	550,430	552,930
12	南城市	53,886	57,102	55,180	538,860	571,020	551,800
13	渡嘉敷村	58,684	45,817	55,162	586,840	458,170	551,620
14	伊江村	52,819	57,527	54,944	528,190	575,270	549,440
15	宜野湾市	53,922	56,401	54,936	539,220	564,010	549,360
16	国頭村	56,898	50,911	54,581	568,980	509,110	545,810
17	那覇市	53,665	55,775	54,517	536,650	557,750	545,170
18	北谷町	51,942	57,312	54,361	519,420	573,120	543,610
19	名護市	53,091	54,228	53,591	530,910	542,280	535,910
20	伊平屋村	56,487	47,562	53,157	564,870	475,620	531,570
21	八重瀬町	52,707	53,455	53,015	527,070	534,550	530,150
22	糸満市	52,761	53,262	52,963	527,610	532,620	529,630
23	沖縄市	51,379	54,183	52,521	513,790	541,830	525,210
24	北中城村	51,184	53,799	52,218	511,840	537,990	522,180
25	北大東村	45,584	55,256	51,842	455,840	552,560	518,420
26	嘉手納町	50,859	53,152	51,798	508,590	531,520	517,980
27	恩納村	51,431	52,199	51,789	514,310	521,990	517,890
28	うるま市	50,654	52,559	51,393	506,540	525,590	513,930
29	金武町	49,347	53,633	50,992	493,470	536,330	509,920
30	読谷村	49,669	52,378	50,792	496,690	523,780	507,920
31	今帰仁村	49,925	51,429	50,448	499,250	514,290	504,480
32	大宜味村	47,205	56,427	50,016	472,050	564,270	500,160
33	南大東村	49,793	49,353	49,598	497,930	493,530	495,980
34	宜野座村	47,048	54,464	49,472	470,480	544,640	494,720
35	本部町	47,238	47,856	47,465	472,380	478,560	474,650
36	東村	48,917	44,143	47,433	489,170	441,430	474,330
37	石垣市	46,610	48,666	47,408	466,100	486,660	474,080
38	久米島町	47,015	46,125	46,630	470,150	461,250	466,300
39	竹富町	44,157	46,144	44,998	441,570	461,440	449,980
40	宮古島市	42,980	43,859	43,347	429,800	438,590	433,470
41	多良間村	30,549	50,958	42,899	305,490	509,580	428,990
42	総計	51,974	54,074	52,836	519,740	540,740	528,360

図 18 地域別、性別の入院平均点数

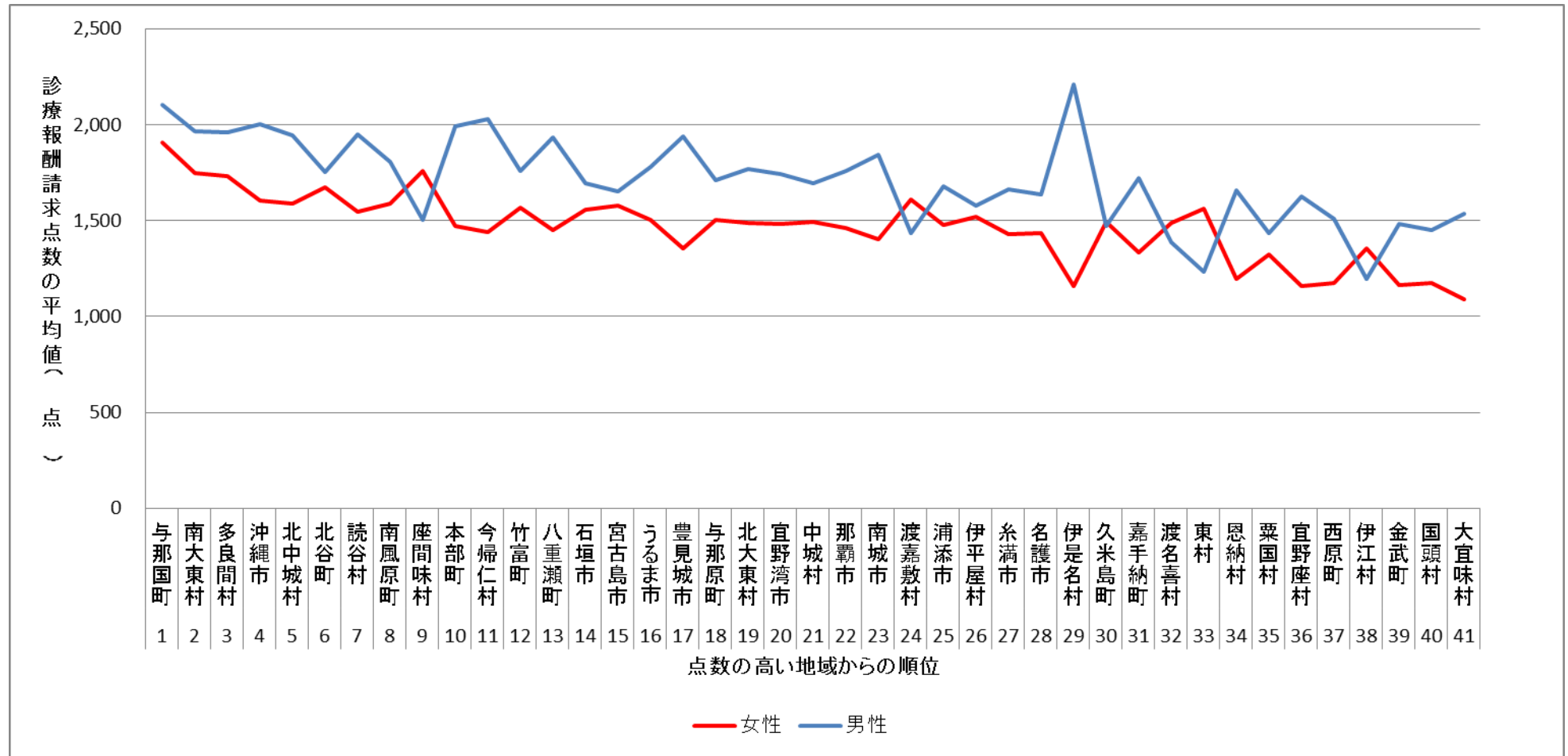


外来平均点数では、第1位と第41位の地域の間で、男女平均請求点数に732点の差がありました。

表11 地域別、性別の外来平均点数(患者一人あたり)

順位	地域	請求点数(点)			請求金額(円)		
		女性	男性	男女平均	女性	男性	男女平均
1	与那国町	1,907	2,103	1,976	19,070	21,030	19,760
2	南大東村	1,749	1,966	1,845	17,490	19,660	18,450
3	多良間村	1,730	1,960	1,817	17,300	19,600	18,170
4	沖縄市	1,606	2,000	1,756	16,060	20,000	17,560
5	北中城村	1,590	1,944	1,724	15,900	19,440	17,240
6	北谷町	1,672	1,754	1,704	16,720	17,540	17,040
7	読谷村	1,543	1,947	1,701	15,430	19,470	17,010
8	南風原町	1,587	1,805	1,673	15,870	18,050	16,730
9	座間味村	1,756	1,503	1,664	17,560	15,030	16,640
10	本部町	1,469	1,991	1,659	14,690	19,910	16,590
11	今帰仁村	1,440	2,030	1,649	14,400	20,300	16,490
12	竹富町	1,567	1,756	1,635	15,670	17,560	16,350
13	八重瀬町	1,450	1,935	1,624	14,500	19,350	16,240
14	石垣市	1,558	1,697	1,611	15,580	16,970	16,110
15	宮古島市	1,576	1,654	1,607	15,760	16,540	16,070
16	うるま市	1,503	1,777	1,604	15,030	17,770	16,040
17	豊見城市	1,353	1,941	1,586	13,530	19,410	15,860
18	与那原町	1,505	1,708	1,585	15,050	17,080	15,850
19	北大東村	1,486	1,770	1,584	14,860	17,700	15,840
20	宜野湾市	1,480	1,744	1,582	14,800	17,440	15,820
21	中城村	1,492	1,696	1,575	14,920	16,960	15,750
22	那覇市	1,459	1,759	1,572	14,590	17,590	15,720
23	南城市	1,400	1,842	1,571	14,000	18,420	15,710
24	渡嘉敷村	1,607	1,432	1,559	16,070	14,320	15,590
25	浦添市	1,474	1,680	1,555	14,740	16,800	15,550
26	伊平屋村	1,521	1,577	1,541	15,210	15,770	15,410
27	糸満市	1,431	1,661	1,515	14,310	16,610	15,150
28	名護市	1,435	1,634	1,513	14,350	16,340	15,130
29	伊是名村	1,159	2,210	1,486	11,590	22,100	14,860
30	久米島町	1,493	1,473	1,486	14,930	14,730	14,860
31	嘉手納町	1,334	1,719	1,478	13,340	17,190	14,780
32	渡名喜村	1,487	1,389	1,449	14,870	13,890	14,490
33	東村	1,560	1,232	1,432	15,600	12,320	14,320
34	恩納村	1,196	1,659	1,369	11,960	16,590	13,690
35	粟国村	1,324	1,433	1,365	13,240	14,330	13,650
36	宜野座村	1,159	1,624	1,331	11,590	16,240	13,310
37	西原町	1,175	1,507	1,304	11,750	15,070	13,040
38	伊江村	1,355	1,197	1,299	13,550	11,970	12,990
39	金武町	1,165	1,481	1,278	11,650	14,810	12,780
40	国頭村	1,173	1,450	1,267	11,730	14,500	12,670
41	大宜味村	1,088	1,537	1,244	10,880	15,370	12,440
42	総計	1,471	1,762	1,582	14,710	17,620	15,820

図 19 地域別、性別の外来平均点数

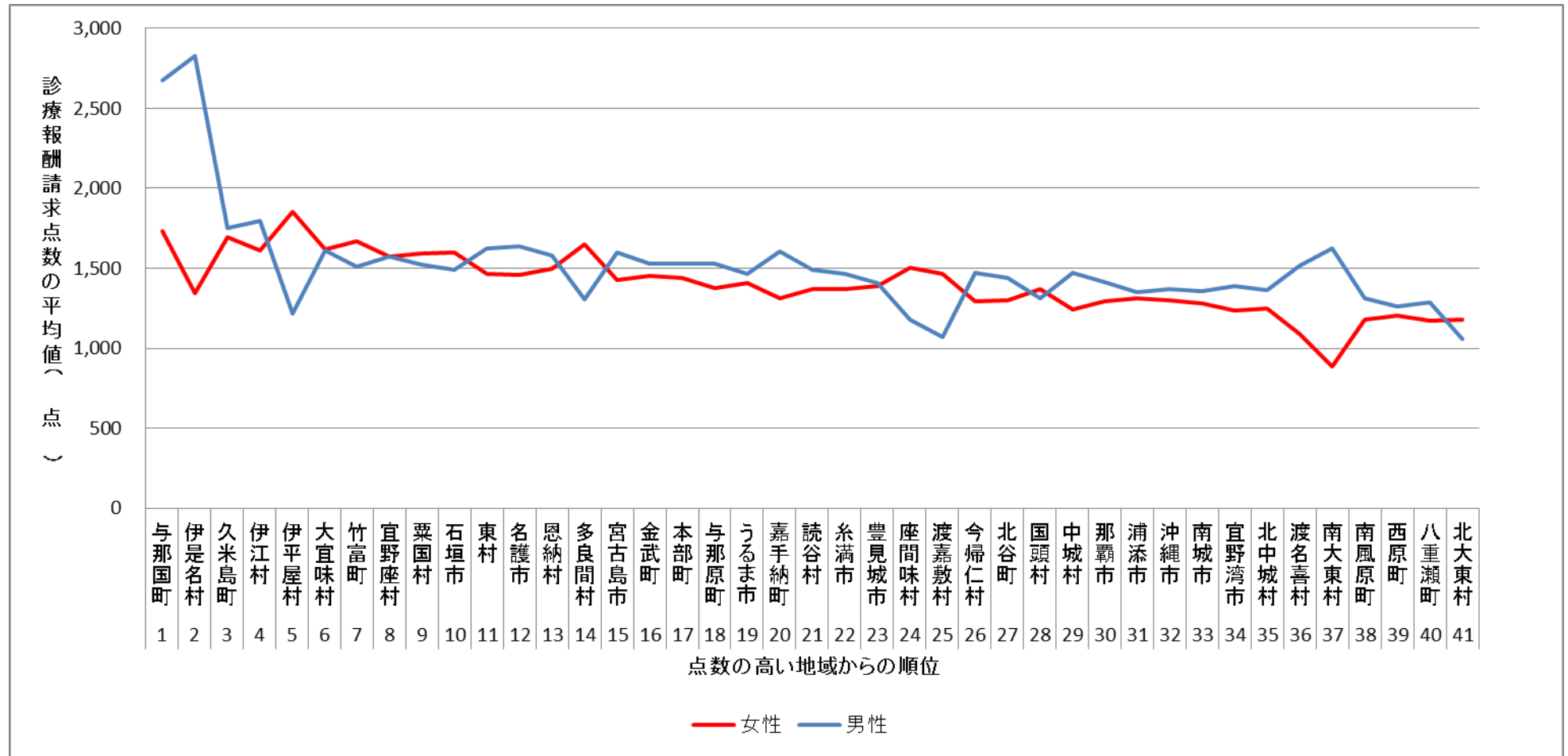


調剤平均点数では、第1位と第41位の地域の間で、男女平均請求点数に834点の差がありました。

表12 地域別、性別の調剤平均点数（患者一人あたり）

順位	地域	請求点数(点)			請求金額(円)		
		女性	男性	男女平均	女性	男性	男女平均
1	与那国町	1,730	2,672	1,988	17,300	26,720	19,880
2	伊是名村	1,346	2,825	1,917	13,460	28,250	19,170
3	久米島町	1,696	1,749	1,716	16,960	17,490	17,160
4	伊江村	1,609	1,795	1,675	16,090	17,950	16,750
5	伊平屋村	1,853	1,214	1,622	18,530	12,140	16,220
6	大宜味村	1,617	1,611	1,615	16,170	16,110	16,150
7	竹富町	1,672	1,508	1,611	16,720	15,080	16,110
8	宜野座村	1,575	1,574	1,575	15,750	15,740	15,750
9	粟国村	1,595	1,520	1,569	15,950	15,200	15,690
10	石垣市	1,599	1,490	1,558	15,990	14,900	15,580
11	東村	1,465	1,622	1,529	14,650	16,220	15,290
12	名護市	1,457	1,640	1,529	14,570	16,400	15,290
13	恩納村	1,496	1,582	1,528	14,960	15,820	15,280
14	多良間村	1,649	1,308	1,522	16,490	13,080	15,220
15	宮古島市	1,429	1,598	1,496	14,290	15,980	14,960
16	金武町	1,449	1,527	1,476	14,490	15,270	14,760
17	本部町	1,436	1,528	1,469	14,360	15,280	14,690
18	与那原町	1,377	1,525	1,434	13,770	15,250	14,340
19	うるま市	1,405	1,462	1,426	14,050	14,620	14,260
20	嘉手納町	1,314	1,606	1,423	13,140	16,060	14,230
21	読谷村	1,372	1,489	1,416	13,720	14,890	14,160
22	糸満市	1,367	1,463	1,402	13,670	14,630	14,020
23	豊見城市	1,388	1,410	1,397	13,880	14,100	13,970
24	座間味村	1,504	1,181	1,382	15,040	11,810	13,820
25	渡嘉敷村	1,463	1,073	1,360	14,630	10,730	13,600
26	今帰仁村	1,295	1,469	1,357	12,950	14,690	13,570
27	北谷町	1,300	1,439	1,352	13,000	14,390	13,520
28	国頭村	1,366	1,311	1,348	13,660	13,110	13,480
29	中城村	1,245	1,469	1,339	12,450	14,690	13,390
30	那覇市	1,291	1,415	1,337	12,910	14,150	13,370
31	浦添市	1,312	1,353	1,328	13,120	13,530	13,280
32	沖縄市	1,301	1,372	1,327	13,010	13,720	13,270
33	南城市	1,279	1,359	1,309	12,790	13,590	13,090
34	宜野湾市	1,237	1,388	1,295	12,370	13,880	12,950
35	北中城村	1,251	1,363	1,292	12,510	13,630	12,920
36	渡名喜村	1,087	1,514	1,268	10,870	15,140	12,680
37	南大東村	884	1,625	1,256	8,840	16,250	12,560
38	南風原町	1,181	1,313	1,233	11,810	13,130	12,330
39	西原町	1,204	1,262	1,227	12,040	12,620	12,270
40	八重瀬町	1,170	1,288	1,211	11,700	12,880	12,110
41	北大東村	1,178	1,059	1,154	11,780	10,590	11,540
42	総計	1,343	1,442	1,380	13,430	14,420	13,800

図 20 地域別、性別の調剤平均点数



3. 患者の転帰について

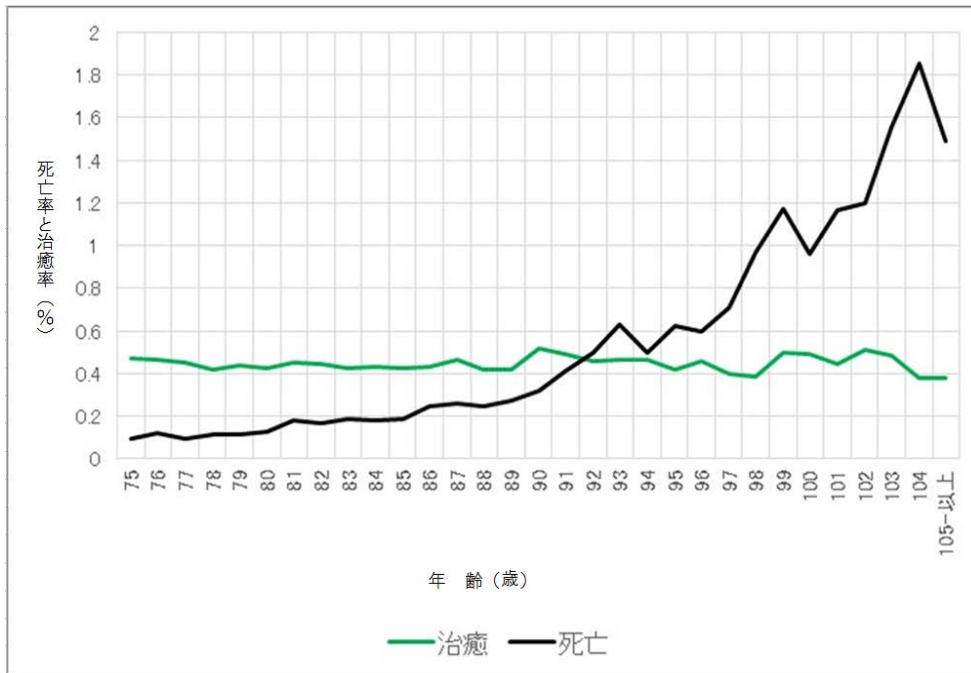
レセプトに記載してある入院レセプトの転帰(病気の経過や結果)を集計し、年齢別にみた、死亡率と治癒率の関係について示します。

なお、ここでは主治医の判断により、レセプトに「死亡」「治癒」が入力されたもので、死亡率をレセプト上「死亡」と記載してある者の割合、治癒率を「治癒(最も医療資源を投入した傷病が治癒したと判断される場合)」と記載してある者の割合とします。

※これは、あくまでもレセプト集計上ではありますが、レセプトに確実に入力されないことも多いため、実際より少ない割合であると考えますが、参考として示します。

治癒率は横ばいであるのに対し、死亡率は90歳以上で右肩上がりに上昇し、最高値を示す104歳では約1.8%を示していました。

図 21 年齢別にみた、死亡率と治癒率の関係



第3章 疾病コードに基づいた疾病構造の特徴

1. 入院医療費・外来医療費の比率

被保険者の入院医療費、外来医療費の合計額を以下に示し、比率を図 22 に示します。医療費総額に入院医療費、外来医療費が占める割合は、それぞれ 60.2%、39.8%でした。

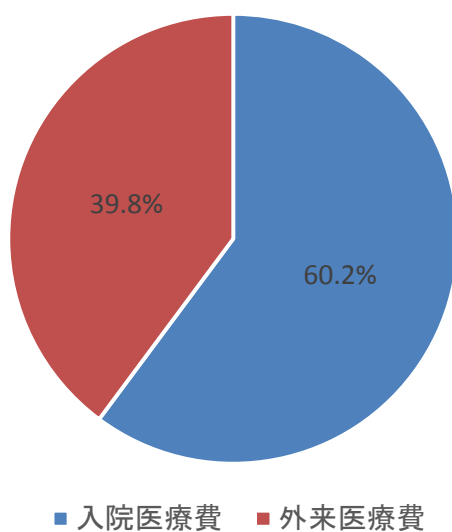
入院医療費合計額

傷病名コード数	人数	合計金額
864	40,176	70,769,179,640

外来医療費合計額

傷病名コード数	人数	合計金額
1,147	126,897	46,835,109,640

図 22 入院医療費・外来医療費の比率



2. 入院医療費(主病名からみた医療費の分析)

1) 主病名からみた医療費の分析方法

入院医療費について、2013年3月から2014年2月診療分の診療報酬明細書(レセプト)を疾病コード別に分析しました。分析方法は、複数の傷病名のレセプトについて、かかった医療費をすべて主病名に集約し、主病名が複数ある場合、すべての医療や薬剤、処置等の医療費をそれぞれの主病名に按分しました。入院基本料等の医療費については、主病名に集約しました。主病名が複数あるときには、それぞれの主病名に按分しています。なお、レセプトに記載されている病名は、検査を行うためにつける病名や、薬を処方するために付ける病名も含まれています。

2) 入院医療費：合計金額からみた分析

合計金額が上位30位までの傷病名を表13に示します。大腿骨骨折、脳血管疾患、心疾患、誤嚥性肺炎、精神疾患が上位を占めました。30疾患までで入院費全体の57.5%を占めています。

傷病名コード数	人数	合計金額
864	40,176	70,769,179,640

※未コード化(1,188人、1,446,338,588円含む)

表13 合計金額が上位30位までの傷病名(入院)

順位	傷病名(ICD-10コード)	人数(人)	合計金額(円)	一人当たりの医療費(円)	合計金額の全体に占める割合	累積割合
1	大腿骨骨折	2,214	4,633,894,392	2,092,997	6.5%	6.5%
2	脳梗塞	2,221	3,864,373,767	1,739,925	5.5%	12.0%
3	心不全	2,367	2,415,249,229	1,020,384	3.4%	15.4%
4	固形物及び液状物による肺臓炎	2,596	2,324,324,874	895,349	3.3%	18.7%
5	脳血管疾患の続発・後遺症	1,067	2,014,282,760	1,887,800	2.8%	21.6%
6	脳内出血	682	1,641,514,681	2,406,913	2.3%	23.9%
7	統合失調症	572	1,585,221,769	2,771,367	2.2%	26.1%
8	腰椎及び骨盤の骨折	1,306	1,550,940,875	1,187,550	2.2%	28.3%
9	アルツハイマー病	843	1,533,179,345	1,818,718	2.2%	30.5%
10	肺炎, 病原体不詳	2,536	1,494,957,165	589,494	2.1%	32.6%
11	膝関節症[膝の関節症]	876	1,493,105,743	1,704,459	2.1%	34.7%
12	本態性(原発性<一次性>)高血圧(症)	2,504	1,360,836,216	543,465	1.9%	36.6%
13	慢性腎不全	807	1,356,308,775	1,680,680	1.9%	38.5%
14	狭心症	1,860	1,217,528,313	654,585	1.7%	40.3%
15	細菌性肺炎, 他に分類されないもの	1,638	1,080,626,876	659,723	1.5%	41.8%
16	パーキンソン病	502	1,074,790,604	2,141,017	1.5%	43.3%
17	詳細不明の認知症	558	983,322,099	1,762,226	1.4%	44.7%
18	その他の敗血症	1,053	934,480,708	887,446	1.3%	46.0%
19	その他の筋障害	921	906,702,153	984,476	1.3%	47.3%
20	気管支及び肺の悪性新生物	704	879,345,302	1,249,070	1.2%	48.5%
21	大動脈瘤及び解離	264	760,433,745	2,880,431	1.1%	49.6%
22	胆石症	719	702,755,356	977,407	1.0%	50.6%
23	頭蓋内損傷	441	675,797,544	1,532,421	1.0%	51.6%
24	尿路系のその他の障害	1,331	661,967,985	497,346	0.9%	52.5%
25	詳細不明の糖尿病	721	642,395,564	890,979	0.9%	53.4%
26	呼吸不全, 他に分類されないもの	432	634,830,527	1,469,515	0.9%	54.3%
27	その他の慢性閉塞性肺疾患	625	632,415,109	1,011,864	0.9%	55.2%
28	結腸の悪性新生物	475	601,271,581	1,265,835	0.8%	56.0%
29	その他の脊椎障害	560	536,468,148	957,979	0.8%	56.8%
30	急性尿細管間質性腎炎	1,017	518,367,948	509,703	0.7%	57.5%

3)入院医療費：一人当たり医療費からみた分析

一人当たり入院医療費が上位 30 位までの傷病名について、患者人数が 10 人以下の病名を除いたものを表 14 に示します。神経変性疾患、心疾患、脳血管疾患、悪性新生物、精神疾患が上位を占めていました。

表 14 一人当たり医療費が上位 30 位までの傷病名(入院) ※人数が 10 名以下の傷病名は除く

順位	傷病名 (ICD-10コード)	人数 (人)	合計金額 (円)	一人当たりの医療費 (円)	合計金額の全体に占める割合	累積割合
1	脊髄性筋萎縮症及び関連症候群	49	248,199,025	5,065,286	0.4%	0.4%
2	連合弁膜症	24	91,964,054	3,831,836	0.1%	0.5%
3	基底核のその他の変性疾患	69	236,972,747	3,434,388	0.3%	0.8%
4	くも膜下出血	100	324,480,900	3,244,809	0.5%	1.3%
5	脳の悪性新生物	21	65,409,452	3,114,736	0.1%	1.4%
6	機能支持機器及び器具への依存, 他に分類されないもの	26	80,338,954	3,089,960	0.1%	1.5%
7	骨髄性白血病	46	133,429,489	2,900,641	0.2%	1.7%
8	大動脈瘤及び解離	264	760,433,745	2,880,431	1.1%	2.7%
9	頸部の神経及び脊髄の損傷	32	90,252,651	2,820,395	0.1%	2.9%
10	統合失調症	572	1,585,221,769	2,771,367	2.2%	5.1%
11	脳のその他の障害	98	260,591,965	2,659,102	0.4%	5.5%
12	脳内出血	682	1,641,514,681	2,406,913	2.3%	7.8%
13	血管性認知症	222	517,440,790	2,330,814	0.7%	8.5%
14	びまん性非ホジキンリンパ腫	50	112,409,292	2,248,186	0.2%	8.7%
15	出血, 他に分類されないもの	15	33,414,623	2,227,642	0.0%	8.7%
16	喉頭の悪性新生物	15	33,284,310	2,218,954	0.0%	8.8%
17	パーキンソン病	502	1,074,790,604	2,141,017	1.5%	10.3%
18	重症筋無力症及びその他の神経筋障害	16	34,128,420	2,133,026	0.0%	10.3%
19	股関節症[股関節部の関節症]	164	344,483,422	2,100,509	0.5%	10.8%
20	大腿骨骨折	2,214	4,633,894,392	2,092,997	6.5%	17.4%
21	急性及び亜急性心内膜炎	42	87,625,241	2,086,315	0.1%	17.5%
22	髄膜の良性新生物	32	66,194,512	2,068,579	0.1%	17.6%
23	炎症性多発(性)ニューロパチ<シ>ー	18	36,272,868	2,015,159	0.1%	17.7%
24	詳細不明の器質性又は症状性精神障害	19	37,863,427	1,992,812	0.1%	17.7%
25	体内整形外科的プロステーシス, 挿入物及び移植片の合併症	25	49,521,524	1,980,861	0.1%	17.8%
26	詳細不明の非器質性精神病	27	52,959,242	1,961,453	0.1%	17.9%
27	食道の悪性新生物	75	146,178,719	1,949,050	0.2%	18.1%
28	下咽頭の悪性新生物	13	24,991,532	1,922,426	0.0%	18.1%
29	脳血管疾患の続発・後遺症	1,067	2,014,282,760	1,887,800	2.8%	20.9%
30	傾眠, 昏迷及び昏睡	160	297,583,748	1,859,898	0.4%	21.4%

4)入院医療費：患者数からみた分析

患者数が上位 30 位までの傷病名を表 15 に示します。人数では肺炎に関する傷病名(1・2・8 位)が突出していました。続いて、高血圧、心疾患、脳血管疾患、大腿骨骨折、泌尿器障害といった傷病名が上位に上がっていることがわかります。

上位 30 位までの傷病名の合計人数は 36,437 人にものぼります。総病名コード数は 864 あるにもかかわらず、30 位の時点で総入院人数 40,176 人の 9 割の人数に達していることから、1 人 1 回入院当たり複数の傷病名がついていることがわかります。

表 15 患者数が上位 30 位までの傷病名(入院)

順位	傷病名(ICD-10コード)	人数(人)	合計金額(円)	一人当たりの医療費(円)
1	固形物及び液状物による肺臓炎	2,596	2,324,324,874	895,349
2	肺炎, 病原体不詳	2,536	1,494,957,165	589,494
3	本態性(原発性<一次性>)高血圧(症)	2,504	1,360,836,216	543,465
4	心不全	2,367	2,415,249,229	1,020,384
5	脳梗塞	2,221	3,864,373,767	1,739,925
6	大腿骨骨折	2,214	4,633,894,392	2,092,997
7	狭心症	1,860	1,217,528,313	654,585
8	細菌性肺炎, 他に分類されないもの	1,638	1,080,626,876	659,723
9	尿路系のその他の障害	1,331	661,967,985	497,346
10	腰椎及び骨盤の骨折	1,306	1,550,940,875	1,187,550
11	脳血管疾患の続発・後遺症	1,067	2,014,282,760	1,887,800
12	その他の敗血症	1,053	934,480,708	887,446
13	その他の白内障	1,038	230,558,759	222,118
14	急性尿細管間質性腎炎	1,017	518,367,948	509,703
15	老人性白内障	1,012	317,026,106	313,267
16	その他の筋障害	921	906,702,153	984,476
17	膝関節症[膝の関節症]	876	1,493,105,743	1,704,459
18	アルツハイマー病	843	1,533,179,345	1,818,718
19	慢性腎不全	807	1,356,308,775	1,680,680
20	蜂巣炎<蜂窩織炎>	739	389,827,984	527,507
21	腸のその他の疾患	728	183,327,321	251,823
22	詳細不明の糖尿病	721	642,395,564	890,979
23	胆石症	719	702,755,356	977,407
24	気管支及び肺の悪性新生物	704	879,345,302	1,249,070
25	脳内出血	682	1,641,514,681	2,406,913
26	その他の慢性閉塞性肺疾患	625	632,415,109	1,011,864
27	インスリン非依存性糖尿病<NIDDM>	622	383,971,330	617,317
28	統合失調症	572	1,585,221,769	2,771,367
29	その他の脊椎障害	560	536,468,148	957,979
30	詳細不明の認知症	558	983,322,099	1,762,226
合計人数		36,437	38,469,276,653	1,055,775

3. 外来医療費(医療費グルーピングからみた医療費分析)

1) 医療費グルーピングからみた医療費の分析方法

外来医療費について、2013年3月から2014年2月診療分の診療報酬明細書(レセプト)の疾病コード別に分析しました。分析方法は、複数の傷病名のレセプトについて、各々の傷病名に関連する治療、薬剤や処置等の医療費をそれぞれの傷病名に集約しました(主病名に拘わらず)。医療処置や薬剤等がどちらの傷病名にも関係すると考えられる場合には、かかった医療費を按分し、どの傷病名にも関連しなかった治療、薬剤や処置等の医療費については、主病名に割り当てています。

2) 外来医療費 : 合計金額からみた分析

合計金額が上位30位までの傷病名を表16に示します。高血圧、腎疾患、代謝障害、アルツハイマー病、糖尿病、骨粗鬆症、整形外科疾患が上位を占めました。外来では、上位30位までの疾患で、外来医療費全体の66.3%を占めました。

傷病名コード数	人数	合計金額
1,147	126,897	46,835,109,640

※未コード化(439人2,177,552円)を含む。

表16 合計金額が上位30位までの傷病名(外来)

順位	傷病名	人数(人)	合計金額(円)	一人当たりの医療費(円)	合計金額の全体に占める割合	累積割合
1	本態性(原発性<一次性>)高血圧(症)	88,799	5,633,529,354	63,441	12.0%	12.0%
2	慢性腎不全	5,980	3,896,571,477	651,601	8.3%	20.3%
3	リポたんぱく<蛋白>代謝障害及びその他の脂(質)血症	47,574	1,745,403,850	36,688	3.7%	24.1%
4	アルツハイマー病	10,795	1,723,793,170	159,684	3.7%	27.8%
5	詳細不明の糖尿病	49,404	1,426,299,199	28,870	3.0%	30.8%
6	骨粗しょう<鬆>症<オステオポロシス>, 病的骨折を伴わないもの	37,511	1,337,273,113	35,650	2.9%	33.7%
7	膝関節症[膝の関節症]	34,681	1,106,173,859	31,896	2.4%	36.0%
8	インスリン非依存性糖尿病<NIDDM>	17,033	1,024,561,293	60,152	2.2%	38.2%
9	その他の白内障	31,165	939,619,191	30,150	2.0%	40.2%
10	緑内障	23,784	859,429,097	36,135	1.8%	42.0%
11	喘息	20,056	843,955,800	42,080	1.8%	43.8%
12	狭心症	29,287	817,599,958	27,917	1.7%	45.6%
13	心不全	29,694	812,580,444	27,365	1.7%	47.3%
14	前立腺の悪性新生物	9,003	727,575,531	80,815	1.6%	48.9%
15	胃食道逆流症	33,452	722,272,563	21,591	1.5%	50.4%
16	脳梗塞	25,494	715,594,225	28,069	1.5%	52.0%
17	胃潰瘍	37,249	693,360,991	18,614	1.5%	53.4%
18	脊椎症	34,128	685,677,074	20,091	1.5%	54.9%
19	睡眠障害	34,971	612,475,902	17,514	1.3%	56.2%
20	前立腺肥大(症)	13,209	572,683,669	43,356	1.2%	57.4%
21	その他の脊椎障害	16,510	572,566,199	34,680	1.2%	58.7%
22	背部痛	46,755	569,879,294	12,189	1.2%	59.9%
23	胃炎及び十二指腸炎	43,910	516,608,269	11,765	1.1%	61.0%
24	その他の腸の機能障害	45,848	464,802,835	10,138	1.0%	62.0%
25	パーキンソン病	3,459	430,174,831	124,364	0.9%	62.9%
26	その他の関節リウマチ	4,800	387,623,615	80,755	0.8%	63.7%
27	その他の皮膚炎	33,824	321,293,659	9,499	0.7%	64.4%
28	うつ病エピソード	6,919	296,152,184	42,803	0.6%	65.0%
29	心房細動及び粗動	7,883	295,443,713	37,479	0.6%	65.7%
30	肩の傷害<損傷>	17,942	292,630,598	16,310	0.6%	66.3%

3) 外来医療費：一人当たり医療費からみた分析

一人当たり外来医療費が上位 30 位までの傷病名について、患者人数が 10 人以下の病名を除いたものを表 17 に示します。悪性新生物、腎疾患、神経変性疾患、心疾患等が上位を占めました。

表 17 一人当たり医療費が上位 30 位までの傷病名(外来) ※人数が 10 名以下の傷病名は除く

順位	傷病名	人数 (人)	合計金額 (円)	一人当たりの 医療費 (円)	合計金額 の全体に占 める割合	累積割合
1	その他及び部位不明確の消化器の悪性新生物	14	13,132,568	938,041	0.0%	0.0%
2	慢性腎不全	5,980	3,896,571,477	651,601	8.3%	8.3%
3	脊髄性筋萎縮症及び関連症候群	43	20,731,128	482,119	0.0%	8.4%
4	骨髄性白血病	188	81,392,439	432,939	0.2%	8.6%
5	心臓及び血管のプロステシス, 挿入物及び移植片の合併症	313	92,466,726	295,421	0.2%	8.8%
6	その他の肺性心疾患	554	112,088,311	202,325	0.2%	9.0%
7	重症筋無力症及びその他の神経筋障害	134	26,933,997	201,000	0.1%	9.1%
8	詳細不明の萎縮腎	560	99,773,776	178,167	0.2%	9.3%
9	びまん性非ホジキンリンパ腫	71	12,044,210	169,637	0.0%	9.3%
10	アルツハイマー病	10,795	1,723,793,170	159,684	3.7%	13.0%
11	静脈のその他の障害	11	1,639,274	149,025	0.0%	13.0%
12	骨髄異形成症候群	176	25,568,223	145,274	0.1%	13.0%
13	乳房の悪性新生物	1,813	258,086,582	142,353	0.6%	13.6%
14	血管性認知症	646	88,121,272	136,411	0.2%	13.8%
15	骨粗しょう<鬆>症<オステオポロシス>, 病的骨折を伴うもの	713	96,777,245	135,732	0.2%	14.0%
16	潰瘍性大腸炎	274	36,681,686	133,875	0.1%	14.1%
17	多発性骨髄腫及び悪性形質細胞性新生物	509	66,644,867	130,933	0.1%	14.2%
18	パーキンソン病	3,459	430,174,831	124,364	0.9%	15.1%
19	アルコール使用<飲酒>による精神及び行動の障害	238	29,045,776	122,041	0.1%	15.2%
20	側鎖<分枝鎖>アミノ酸代謝及び脂肪酸代謝障害	97	11,788,464	121,531	0.0%	15.2%
21	直腸S状結腸移行部の悪性新生物	36	3,924,294	109,008	0.0%	15.2%
22	アスペルギルス症	89	8,698,766	97,739	0.0%	15.2%
23	直腸の悪性新生物	888	80,247,181	90,368	0.2%	15.4%
24	インスリン依存性糖尿病<IDDM>	546	44,288,455	81,114	0.1%	15.5%
25	前立腺の悪性新生物	9,003	727,575,531	80,815	1.6%	17.1%
26	その他の関節リウマチ	4,800	387,623,615	80,755	0.8%	17.9%
27	ホジキン病	12	941,031	78,419	0.0%	17.9%
28	臓器及び組織の移植後の状態	168	12,925,513	76,938	0.0%	17.9%
29	統合失調感情障害	57	4,047,526	71,009	0.0%	17.9%
30	脳の悪性新生物	83	5,886,714	70,924	0.0%	17.9%

4) 外来医療費：患者数からみた分析

患者数が上位 30 位までの傷病名を表 18 に示します。高血圧、眼科疾患、糖尿病等の生活習慣病や加齢による疾病が上位を占めています。また、「背部痛」は湿布等の処方、「胃炎及び十二指腸炎」、「胃潰瘍」は胃薬処方のため患者数が多くなっているものと推察されます。

表 18 患者数が上位 30 位までの傷病名(外来)

順位	傷病名	人数 (人)	合計金額 (円)	一人当たりの 医療費 (円)
1	本態性(原発性<一次性>)高血圧(症)	88,799	5,633,529,354	63,441
2	屈折及び調節の障害	57,332	283,736,178	4,949
3	詳細不明の糖尿病	49,404	1,426,299,199	28,870
4	リポたんぱく<蛋白>代謝障害及びその他の脂(質)血症	47,574	1,745,403,850	36,688
5	背部痛	46,755	569,879,294	12,189
6	その他の腸の機能障害	45,848	464,802,835	10,138
7	胃炎及び十二指腸炎	43,910	516,608,269	11,765
8	結膜炎	37,561	282,789,185	7,529
9	骨粗しょう<鬆>症<オステオポロシス>, 病的骨折を伴わないもの	37,511	1,337,273,113	35,650
10	胃潰瘍	37,249	693,360,991	18,614
11	睡眠障害	34,971	612,475,902	17,514
12	膝関節症[膝の関節症]	34,681	1,106,173,859	31,896
13	その他の機能性の挿入物の存在	34,471	155,685,603	4,516
14	脊椎症	34,128	685,677,074	20,091
15	その他の皮膚炎	33,824	321,293,659	9,499
16	胃食道逆流症	33,452	722,272,563	21,591
17	その他の白内障	31,165	939,619,191	30,150
18	多部位及び部位不明の急性上気道感染症	30,656	123,502,183	4,029
19	心不全	29,694	812,580,444	27,365
20	狭心症	29,287	817,599,958	27,917
21	脳梗塞	25,494	715,594,225	28,069
22	緑内障	23,784	859,429,097	36,135
23	急性気管支炎	23,138	109,809,587	4,746
24	涙器の障害	21,833	208,053,337	9,529
25	その他の多発(性)ニューロパチ<シ>ー	21,323	190,630,269	8,940
26	角膜炎	21,213	137,607,375	6,487
27	その他の肝疾患	20,839	110,514,090	5,303
28	喘息	20,056	843,955,800	42,080
29	血管運動性鼻炎及びアレルギー性鼻炎<鼻アレルギー>	18,892	210,250,892	11,129
30	その他の不整脈	18,675	156,237,576	8,366

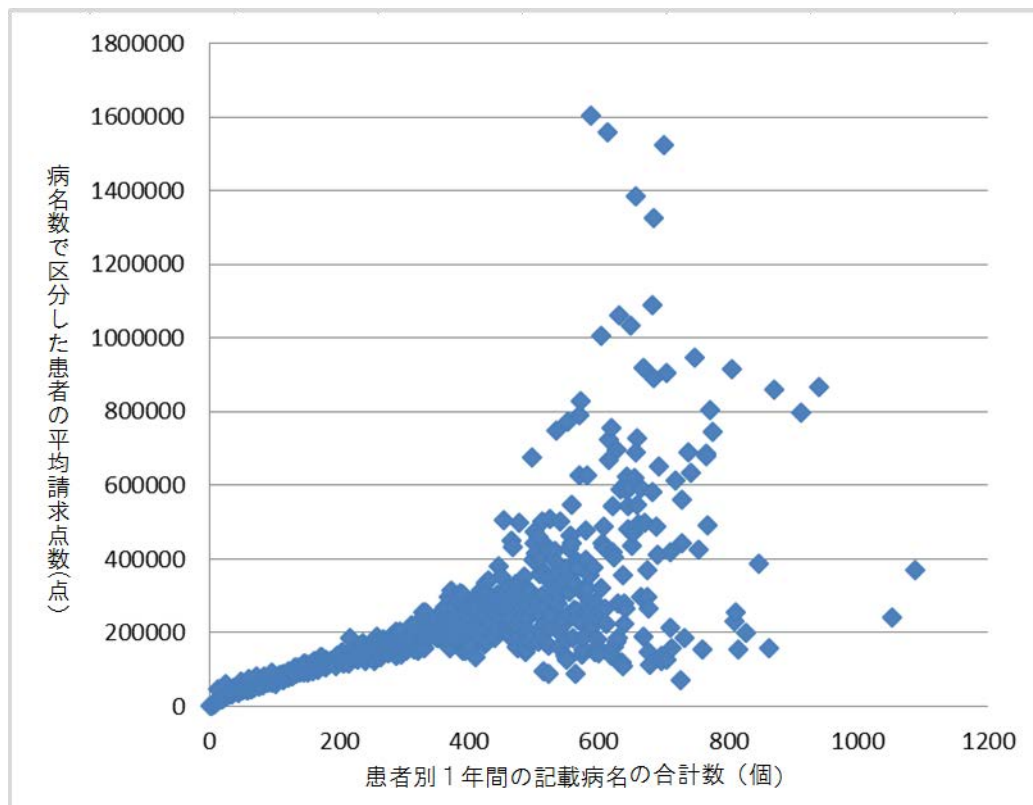
4. レセプト記載傷病名からみた医療費分析

1) レセプト枚数と傷病名の数

レセプト1枚に書かれた病名数の数に注目しました。レセプトに記載された傷病名の数と診療点数の関係を整理すると、レセプト傷病名数が多いほど個別請求点数は多い傾向にあることが分かりました。(図 23)

図 23 受診者個人別のレセプト上の病名 1 年間の合計数と、請求点数平均値請求点数の関係

※1年間すべての病名を集計したものであり、重複あり



病名の数については、沖縄県の後期高齢者医療制度の受診者 131,067 人のレセプトに書かれた疾患名は 27,288 種類あり、主傷病名とされた傷病名はこのうちの半数近い 11,327 種類(41.5%)でした。レセプト上に記載された記載数の多い傷病名上位 30 位までを表 19 に示し、このうち同じと思われる病名を合算したものを表 20 に示します。

表 19 レセプト記載された数が多い傷病名上位 30 位(入院・外来合算)

順位	傷病名	記載された数
1位	高血圧症	886,731
2位	便秘症	459,564
3位	不眠症	402,569
4位	骨粗鬆症	358,159
5位	高脂血症	356,416
6位	腰痛症	335,934
7位	変形性膝関節症	306,897
8位	胃潰瘍	292,582
9位	糖尿病	276,338
10位	逆流性食道炎	206,797
11位	眼内レンズ挿入眼	200,551
12位	狭心症	199,227
13位	慢性胃炎	175,784
14位	気管支喘息	164,945
15位	高コレステロール血症	162,560
16位	末梢神経障害	159,572
17位	遠視性乱視	155,553
18位	高尿酸血症	154,751
19位	白内障	144,938
20位	湿疹	137,124
21位	変形性腰椎症	134,607
22位	肩関節周囲炎	133,902
23位	前立腺肥大症	128,074
24位	鉄欠乏性貧血	123,762
25位	腰部脊柱管狭窄症	118,780
26位	脳梗塞	117,399
27位	不安神経症	108,053
28位	胃炎	107,894
29位	慢性心不全	106,311
30位	肝機能障害	105,327

表 20 「表 19」のうち、類似した病名を合算

傷病名	記載された数
胃潰瘍＋慢性胃炎＋胃炎	576,260
高脂血症＋高コレステロール血症	518,976

なお、以下の病名は、このような薬剤を使用する際につけられた割合が高いと考えられます。

表 21 レセプト記載数が多い傷病名と使用される代表的薬剤名

※ジェネリック医薬品の商品名は、以下に含まれていない。

傷病名	分類	商品名
便秘症	浸透圧性下剤	マグラックス
	大腸刺激性下剤	ヨーデルS糖衣錠
		アローゼン、プルゼニド ラキソベロン
	坐薬	テレミンソフト坐薬 新レシカルボン坐薬
不眠症	睡眠導入剤(超短時間～短時間作用型)	マイスリー、ハルシオン、アモバン、デパス、レンドルミン、リスミー
	睡眠導入剤(中間作用型)	ロヒプノール、サイレース、ユーロジン、ベンザリン
	睡眠導入剤(長時間作用型)	
骨粗鬆症	活性型ビタミンD製剤	ロカルトロール、アルファロール、ワンアルファ
	ビスホスホネート製剤	ベネット、リカルボン
	カルシウム製剤	アスパラCA
腰痛症	消炎鎮痛薬(内服薬)	ロキソニン、ボルタレン、カロナール、セレコックス、ハイペン ※内服薬のうち、左記のような非ステロイド系消炎鎮痛薬は、副作用(胃痛、胃潰瘍)予防として胃薬をセットで処方されることが多い。
	消炎鎮痛薬(湿布薬)	ロキソニンパップ、ボルタレンテープ、MS湿布、モーラステープ
	消炎鎮痛薬(塗布薬)	インテバン軟膏・クリーム、ボルタレンゲル
胃潰瘍、慢性胃炎、胃炎	プロトンポンプ阻害薬	オメプラール、タケプロン、パリエット
	H ₂ ブロッカー	ザンタック、ガスター、プロテカジン
	防御因子増強薬	セルベックス、ムコスタ、サイトテック
気管支喘息	気管支拡張薬	テオドール、ホクナリン、ユニフィル

また、レセプト上に主病名として記載された数が多い傷病名を表 22 に示し、このうち類似した病名を合算したものを表 23 に示します。

表 22 主病名としてレセプト記載された数が多い傷病名上位 30 位(入院・外来合算)

順位	傷病名	主病名として記載された数
1位	高血圧症	573,939
2位	変形性膝関節症	98,890
3位	高脂血症	96,163
4位	糖尿病	80,926
5位	白内障	58,064
6位	骨粗鬆症	57,255
7位	狭心症	56,909
8位	2型糖尿病	51,944
9位	気管支喘息	50,555
10位	腰部脊柱管狭窄症	42,250
11位	眼内レンズ挿入眼	41,406
12位	脳梗塞	40,763
13位	胃潰瘍	40,505
14位	変形性腰椎症	40,390
15位	アルツハイマー型認知	38,493
16位	前立腺肥大症	37,598
17位	高コレステロール血症	36,502
18位	慢性胃炎	28,812
19位	脳梗塞後遺症	26,209
20位	緑内障	24,112
21位	脂質異常症	23,836
22位	湿疹	23,744
23位	慢性結膜炎	22,606
24位	不眠症	20,946
25位	遠視性乱視	20,423
26位	本態性高血圧症	19,832
27位	肩関節周囲炎	19,611
28位	便秘症	19,364
29位	腰痛症	19,329
30位	ドライアイ	18,687

表 23 「表 22」のうち、類似した病名を合算

傷病名	主病名として記載された数
高血圧症＋本態性高血圧症	593,771
高脂血症＋高コレステロール血症＋脂質異常症	156,501
糖尿病＋2型糖尿病	132,870
胃潰瘍＋慢性胃炎	69,317

2)レセプト傷病名ランキング:平均点数

主傷病名で平均請求点数が高い順に示した表 24 によると、カテーテル感染症、急性呼吸窮迫症候群が平均 100 万円を超え、上位 30 位まではすべて 60 万円を超えていました。また、30 位までの合計請求点数が入院医療費に占める割合は、1.4%でした。

特徴として、以下の様な高額医療処置が行われていることが読み取れます。

- ① 医療機関でのカテーテル(膀胱留置カテーテルや中心静脈カテーテルなど)の感染症及びその予防のための抗菌薬の処方が多くみられます。
- ② 急性呼吸急迫症候群、急性肺障害、蘇生に成功した心停止、人工呼吸器装着状態、MRSA敗血症等、高度急性期病院でみられる処置や集中治療が高い割合を占めています。
- ③ 脳卒中や心筋梗塞、心不全・腎不全・呼吸不全などの急性増悪等、急性対応が多く行われていることが推察されます。

表 24 平均請求点数の高い傷病名上位 30 位(レセプト 100 枚以上の傷病名のみ)

順位	傷病名	レセプト枚数	合計請求点数(点)	平均点数(点)
1位	カテーテル感染症	390	42,465,367	108,886
2位	急性呼吸窮迫症候群	408	42,958,242	105,290
3位	急性肺傷害	117	10,676,782	91,255
4位	蘇生に成功した心停止	450	39,929,764	88,733
5位	塞栓性脳梗塞・急性期	136	11,343,298	83,407
6位	MRSA敗血症	893	73,441,460	82,241
7位	急性汎発性腹膜炎	417	32,904,092	78,907
8位	急性骨髄性白血病	440	34,202,504	77,733
9位	真菌血症	134	10,011,092	74,710
10位	日常生活動作障害	193	14,400,697	74,615
11位	敗血症性ショック	2,212	162,801,676	73,599
12位	心原性ショック	434	31,598,722	72,808
13位	術後出血性ショック	101	7,283,431	72,113
14位	中心静脈カテーテル感染症	106	7,614,596	71,836
15位	全身性炎症反応症候群	286	20,507,069	71,703
16位	急性失血性貧血	416	29,741,333	71,494
17位	ぶどう球菌性敗血症	247	17,437,857	70,599
18位	急性十二指腸潰瘍穿孔	113	7,750,522	68,589
19位	MRSA肺炎	1,028	70,212,444	68,300
20位	出血性ショック	756	51,489,885	68,108
21位	細菌性髄膜炎	178	12,021,952	67,539
22位	人工呼吸器装着状態	729	48,497,170	66,526
23位	急性意識障害	196	13,035,519	66,508
24位	小腸壊死	149	9,857,079	66,155
25位	重症感染症	542	35,725,440	65,914
26位	一側性原発性膝関節症	981	63,271,739	64,497
27位	低心拍出量症候群	139	8,891,557	63,968
28位	低酸素性脳症	959	60,413,090	62,996
29位	悪性胸膜中皮腫	117	7,351,239	62,831
30位	交通性水頭症	143	8,778,922	61,391

※1点=10円

第4章 医療費適正化の観点からみた分析

1. 高額医療費消費者に関する分析

後期医療受診者の1年間(12ヶ月)の診療報酬請求点数の多い受診者から降順に並べると、最も高いのが男性 272 万点で女性は 206 万点でした。上位 20 位までの者はすべて合計診療報酬点数が 152 万点以上でした。

表 25 合計診療報酬点数が高い上位 20 人

順位	合計請求点数(点)	
	男性	女性
1	2,720,626	
2	2,101,485	
3		2,066,933
4	2,017,794	
5		1,965,774
6	1,938,859	
7		1,860,350
8		1,852,968
9	1,832,930	
10	1,810,682	
11	1,740,028	
12		1,643,512
13	1,636,128	
14	1,575,305	
15	1,563,926	
16	1,563,280	
17	1,560,762	
18		1,538,830
19		1,524,082
20		1,522,628

※1 点 = 10 円

【高額医療費消費者の詳細】

高額医療費消費者の詳細を表 26 に示します。傷病名のうち、主病名は病名の後に(主)と記載し、入院の原因となった主病名を太字・下線で示しています。

後期高齢者医療制度では、外科治療や高度医療機器を要する心疾患、悪性新生物を主傷病名にもつ者、慢性疾患の増悪・合併症発症がみられる者が上位を占めていました。これらの者においては、基礎疾患の適切な自己管理、治療によるさらなる重症化予防、療養内容・場所の決定や療養環境の調整(必要なサービス導入、患者・家族教育等)を行うことが可能か検討していくことが重要となります。

表 26 高額医療費消費者上位5名の詳細

患者	地域	年齢	性別	レセプト種類	医療機関名	請求点数(点)	請求金額(円)	日数(日)
1	沖縄県	70代	男性	入院	A病院	2,720,626	27,206,260	365

傷病名

1 連合弁膜症(主)	31 緑膿菌肺炎	61 開放創
2 HTLV-I感染症	32 アレルギー性じんま疹	62 過剰喀痰
3 甲状腺機能障害	33 2型糖尿病・ケトアシドーシス合併あり	63 胸部膿瘍
4 2型糖尿病	34 全身性炎症反応症候群	64 下痢症
5 低アルブミン血症	35 急性肺傷害	65 日和見真菌症
6 低カリウム血症	36 非結核性抗酸菌症	66 先天性第XIII因子欠乏症
7 出血性貧血	37 大動脈弁狭窄兼閉鎖不全症	67 肺癆
8 播種性血管内凝固	38 偽膜性腸炎	68 糞線虫症
9 僧帽弁狭窄兼閉鎖不全症	39 術後難治性逆流性食道炎	69 閉塞性イレウス
10 慢性心房細動	40 手術創離開	70 消化管出血
11 陳旧性脳梗塞	41 便秘症	71 アレルギー性皮膚炎
12 細菌性肺炎	42 声帯ポリープ	72 急性尿路感染
13 間質性肺炎	43 喉頭浮腫	73 結膜浮腫
14 気管支喘息	44 嚥下障害	74 点状角膜炎
15 慢性胃潰瘍	45 胸椎骨髄炎	75 ドライアイ
16 麻痺性イレウス	46 壊死性筋膜炎	76 真菌性眼内炎
17 非代償性肝硬変	47 頸部皮膚潰瘍	
18 急性腎不全	48 出血傾向	
19 胸骨骨髄炎	49 急性耳痛	
20 喀痰喀出困難	50 インフルエンザ	
21 MRSA肺炎	51 再発性急性膀胱炎	
22 MRSA敗血症	52 気圧性中耳炎	
23 うっ血性心不全	53 耳管機能低下	
24 真菌血症	54 MRSA骨髄炎	
25 滲出性胸水	55 股部白癬	
26 重症感染症	56 血小板減少症	
27 廃用症候群	57 胃潰瘍	
28 不安障害	58 おむつ皮膚炎	
29 本態性高血圧症	59 肋骨骨髄炎	
30 腰痛症	60 喀血	

患者	地域	年齢	性別	レセプト種類	医療機関名	請求点数(点)	請求金額(円)	日数(日)
2	沖縄県	70代	男性	入院	A病院	2,100,678	21,006,780	64
				外来	B皮フ科	348	3,480	1
				調剤	C薬局	459	4,590	1

傷病名

1 尋常性疣贅	31 後天性凝固因子欠乏症	61 全身性炎症反応症候群
2 皮膚感染症	32 出血傾向	62 低心拍出量症候群
3 脂漏性皮膚炎(主)	33 血小板減少症	63 急性肺傷害
4 湿疹	34 頻拍型心房細動	64 腹部皮膚欠損創
5 毛孔性苔癬	35 陳旧性脳梗塞	65 便秘症
6 足白癬	36 アフトタ性口内炎	66 腎性貧血
7 しゅさ様皮膚炎	37 急性出血性胃潰瘍	67 肝性脳症
8 高脂血症(主)	38 麻痺性イレウス	68 上部消化管出血
9 慢性心房細動	39 閉塞性イレウス	69 褥瘡
10 胸部大動脈瘤(主)	40 急性汎発性腹膜炎	70 真菌性眼内炎
11 気管支喘息	41 慢性肝炎増悪	71 剥離性食道炎
12 高尿酸血症	42 肝機能障害	72 急性結膜炎
13 胸腹部大動脈瘤	43 胆汁うっ滞	
14 高血圧症	44 急性腎性腎不全	
15 腎機能低下	45 皮膚びらん	
16 難治性逆流性食道炎	46 エンドトキシン性ショック	
17 労作性狭心症	47 敗血症性ショック	
18 髄膜炎	48 MRSA髄膜炎	
19 細菌性髄膜炎	49 MRSA保菌者	
20 股部白癬	50 アンチトロンピンIII欠乏症	
21 肺カンジダ症	51 うっ血性心不全	
22 横行結腸癌	52 嘔吐症	
23 パントテン酸欠乏症	53 急性循環不全	
24 低アルブミン血症	54 グラム陰性菌敗血症	
25 低カルシウム血症	55 甲状腺機能低下症	
26 代謝性アシドーシス	56 重症感染症	
27 高カリウム血症	57 臍液瘻	
28 低カリウム血症	58 線溶亢進	
29 鉄欠乏性貧血	59 不眠症	
30 播種性血管内凝固	60 慢性じんま疹	

患者	地域	年齢	性別	レセプト 種類	医療機関名	請求点数 (点)	請求金額 (円)	日数 (日)
3	沖縄県	80代	女性	入院	A病院	1,706,108	17,061,080	132
				入院	B病院	334,159	3,341,590	89
				外来	Cクリニック	2,767	27,670	5
				外来	D病院	296	2,960	1
				外来	A病院	4,281	42,810	5
				外来	E病院	9,375	93,750	7
				外来	F病院	230	2,300	1
				調剤	G薬局	9,717	97,170	10

傷病名

1 うつ病(主)	31 偽膜性腸炎	61 難治性逆流性食道炎
2 不眠症	32 高血圧症(主)	62 アルツハイマー型認知症
3 腹部大動脈瘤(主)	33 大動脈弁閉鎖不全症(主)	63 脂質異常症
4 上腹部痛(主)	34 上行大動脈拡張(主)	64 ペースメーカー植え込み後
5 総腸骨動脈瘤(主)	35 感染性胃腸炎	
6 胃癌	36 回盲部腫瘍	
7 肝癌	37 器質性精神障害	
8 肝腫瘍	38 イレウス	
9 血液凝固異常	39 菌血症	
10 萎縮性胃炎	40 腸糞線虫症	
11 肝のう胞	41 尿路感染症	
12 びらん性胃炎	42 出血性ショック	
13 胃ポリープ	43 心臓破裂	
14 多発性肝のう胞	44 心室瘤(主)	
15 B型肝炎	45 大動脈基部拡大(主)	
16 C型肝炎	46 高脂血症	
17 糖尿病	47 逆流性食道炎	
18 梅毒	48 バルサルバ洞動脈瘤(主)	
19 多発性脳梗塞	49 廃用症候群	
20 甲状腺機能異常	50 過活動膀胱	
21 不整脈	51 腰殿部帯状疱疹	
22 心不全	52 アルツハイマー型老年認知症	
23 胃潰瘍	53 腹痛症	
24 MRSA肺炎	54 子宮筋腫	
25 アナフィラキシー	55 骨粗鬆症	
26 うっ血性心不全	56 下腹痛	
27 高血圧性心不全	57 スtent植え込み状態	
28 心筋梗塞	58 高カリウム血症	
29 脱水症	59 脳梗塞後遺症	
30 肺塞栓症	60 アレルギー性鼻炎	

患者	地域	年齢	性別	レセプト 種類	医療機関名	請求点数 (点)	請求金額 (円)	日数 (日)
4	沖縄県	80代	男性	入院	A病院	2,010,076	20,100,760	209
				外来	B病院	3,249	32,490	1
				外来	A病院	886	8,860	1
				外来	C病院	516	5,160	2
				調剤	D薬局	3,067	30,670	2

傷病名

1 感染性胸部大動脈瘤(主)	31 高次脳機能障害
2 排尿障害(主)	32 MRSA感染症
3 急性呼吸不全	33 真菌症
4 胸部食道損傷	34 術後膿瘍
5 高血圧症(主)	35 末梢前庭性眩暈
6 前立腺肥大症	36 貧血
7 尿道狭窄症	37 出血傾向
8 肺癰	38 末梢神経炎
9 出血性ショック	39 狭心症
10 器質性精神障害	40 椎骨脳底動脈循環不全
11 上肢麻痺	41 腎不全
12 虚血性脳血管障害	42 移植人工血管感染
13 無気肺	43 便秘症
14 前立腺膿瘍	44 先天性第XIII因子欠乏症
15 嚥下障害	
16 開胸術後廃用症候群	
17 胃潰瘍	
18 胸背部痛	
19 末梢神経障害性疼痛	
20 急性上気道炎	
21 肺癌(主)	
22 不整脈	
23 肺炎	
24 縦隔炎	
25 脱水症	
26 尿路感染症	
27 肺腫瘍陰影	
28 多発性脳梗塞	
29 食道瘻(主)	
30 循環血液量減少性ショック	

患者	地域	年齢	性別	レセプト種類	医療機関名	請求点数(点)	請求金額(円)	日数(日)
5	沖縄県	70代	女性	入院	A病院	1,558,102	15,581,020	135
				入院	B病院	95,961	959,610	22
				外来	C内科医院	285,984	2,859,840	92
				外来	D眼科医院	2,248	22,480	7
				調剤	E薬局	19,135	191,350	19
				調剤	F薬局	4,344	43,440	7

傷病名

1 糖尿病網膜症(主)	34 腎結石症	67 出血傾向
2 角膜びらん(主)	35 僧帽弁閉鎖不全症	68 うつ病
3 視神経萎縮(主)	36 大腿痛	69 閉塞性肥大型心筋症
4 びまん性表層角膜炎(主)	37 大動脈弁狭窄症	70 徐脈
5 睫毛乱生症(主)	38 大動脈弁閉鎖不全症	71 心不全
6 ドライアイ(主)	39 梅毒	72 陳旧性脳梗塞
7 慢性結膜炎(主)	40 ビタミンC欠乏症	73 痔核
8 アレルギー性結膜炎	41 閉塞性動脈硬化症	74 肺炎
9 開放隅角緑内障	42 便秘症	75 慢性気管支炎
10 近視性乱視	43 腰痛症	76 肝機能障害
11 眼内レンズ挿入眼	44 高リン血症	77 湿疹
12 慢性腎不全(主)	45 透析アミロイドーシス	78 老人性乾皮症
13 糖尿病(主)	46 膿皮症	79 皮膚びらん
14 腎性貧血(主)	47 透析シャント狭窄	80 肩関節炎
15 副甲状腺機能亢進症	48 <u>ぶどう球菌性敗血症(主)</u>	81 敗血症性ショック
16 高コレステロール血症	49 <u>感染性心内膜炎(主)</u>	82 慢性呼吸不全
17 鉄欠乏性貧血	50 2型糖尿病・腎合併症あり	83 深在性真菌症
18 心身症	51 末期腎不全	84 トリコモナス膣炎
19 眼精疲労	52 敗血症	85 廃用症候群
20 狭心症	53 播種性血管内凝固	86 脾梗塞
21 心房細動	54 洞不全症候群	87 不眠症
22 心室期外収縮	55 下部消化管出血	88 統合失調症
23 内痔核	56 <u>MRSA感染性心内膜炎(主)</u>	89 慢性動脈閉塞症
24 急性気管支炎	57 重症感染症	90 大動脈弁置換術後
25 アレルギー性鼻炎	58 <u>MRCNS敗血症(主)</u>	91 術後難治性逆流性食道炎
26 気管支喘息	59 輸血後肝炎	92 発作性心房細動
27 胃潰瘍	60 腸炎	93 グラム陽性菌敗血症
28 接触皮膚炎	61 体部白癬	94 慢性心不全
29 肩関節周囲炎	62 会陰部カンジダ症	95 術後縦隔洞炎
30 骨粗鬆症	63 肺カンジダ症	96 急性呼吸不全
31 頭痛	64 低アルブミン血症	97 2型糖尿病性腎症
32 高尿酸血症	65 低カリウム血症	98 副甲状腺機能障害
33 高血圧症	66 血液凝固異常	

2. 重複受診について

1) 重複受診者のレセプト枚数発行状況

レセプト総枚数が多い被保険者を抽出した結果を以下に示します。レセプト総枚数では、上位 20 位までの被保険者に対し、一人あたり年間 120 枚以上(月平均 10 枚以上)のレセプトが発行され、20 位までの合計レセプト枚数は 2,611 枚ありました。

表 27 1 人当たり年間レセプト枚数 120 枚以上の被保険者リスト

番号	男性レセプト枚数(枚)				女性レセプト枚数(枚)			
	外来	調剤	入院	合計	外来	調剤	入院	合計
1	87	69	2	158				
2	75	66		141				
3	76	65		141				
4	73	65		138				
5	75	58	1	134				
6	70	62	2	134				
7	66	66		132				
8	71	59		130				
9	66	59	5	130				
10	69	60		129				
11					75	54		129
12					71	58		129
13					70	57		127
14					65	58	2	125
15					61	63		124
16	71	53		124				
17	78	46		124				
18					63	58		121
19					64	57		121
20	67	52	1	120				

表 28 後期高齢者医療制度でレセプト枚数が年間 120 枚以上の被保険者 20 名の状況(表 27 の合計)

	レセプト枚数(枚)			医療点数(点)		
	男性	女性	合計	男性	女性	合計
外来	944	469	1413	1,122,643	466,211	1,588,854
調剤	780	405	1185	820,312	350,912	1,171,224
入院	11	2	13	318,713	65,299	384,012
合計	1735	876	2611	2,261,668	882,422	3,144,090

※1 点=10 円

2)レセプトの種類別に見た、レセプト枚数の多い受診者

レセプトの種類別に見たレセプト枚数の多い被保険者上位 20 名を抽出した結果を以下に示します。外来レセプト枚数においては、年間 70 枚以上(月平均 5.8 枚以上)と非常に多くなっていました。

表 29 外来レセプト枚数が多い上位 20 人

順位	外来レセプト枚数(枚)			
	外来	調剤	入院	総計
1	87	69	2	158
2	83	28	1	112
3	78	46		124
4	77	39	1	117
4	77	34		111
6	76	65		141
7	75	58	1	134
7	75	66		141
7	75	54		129
7	75	44		119
11	74	42	2	118
12	73	65		138
13	72	45	1	118
13	72	33	2	107
15	71	53		124
15	71	59		130
15	71	58		129
18	70	47		117
18	70	39		109
18	70	62	2	134

また、入院レセプト枚数が多い上位20名においても年間 16 枚以上(月平均 1.3 枚以上)と非常に多いレセプト発行状況でした。

表 30 入院レセプト枚数が多い上位 20 人

順位	入院レセプト枚数(枚)			
	外来	調剤	入院	総計
1	3		20	23 ※1
2	4	2	18	24 ※2
2	1	1	18	20 ※3
2	1		18	19 ※4
2	1		18	19 ※5
6	11	8	17	36 ※6
6	2	1	17	20
6	2	1	17	20
6	6		17	23
6	2		17	19
6	2		17	19
6	2		17	19
6	1		17	18
14	12	4	16	32 ※7
14	9	4	16	29
14	6	4	16	26
14	4	1	16	21
14	3	1	16	20
14	2	1	16	19
14	13		16	29

次いで、1年間の入院レセプト枚数が多い被保険者のうち上位5名、外来レセプト枚数が多い6位及び14位の各1名(表30の※1～7)についても詳細を以下に示します。なお、医療機関名の横には、受療理由となった傷病名を示し、入院レセプトは主病名を、外来レセプトは他医療機関と重複している傷病名を中心に示します。また、傷病名一覧では、主病名は病名の後に(主)と記載し、入院の原因となった主病名を太字・下線で示しています。

分析した結果、類似した病名で複数の医療機関に入院している患者や、年間当たりの入院日数の合計が365日を上回り、外来受診日数が少なく、自宅退院をはさまずに転院する患者がいることが分かりました。

表31 入院レセプト枚数が多い者の詳細

患者	地域	年齢	性別	種類	医療機関名	請求点数 (点)	請求金額 (円)	日数 (日)	主病名/傷病名
※1	沖縄県	80代	男性	入院	A病院	282,668	2,826,680	252	うつ病 気分障害
				入院	B病院	374,187	3,741,870	126	気管支拡張症 細菌性肺炎 肺炎桿菌肺炎 連鎖球菌肺炎
				外来	B病院	3,956	39,560	2	気管支拡張症 大腿骨頸部外側骨折 気管支喘息 統合失調症 うつ病 他
				外来	C眼科	984	9,840	1	白内障 遠視性乱視 慢性結膜炎

傷病名

1 うつ病(主)	21 貧血	41 肺炎桿菌肺炎(主)
2 陈旧性肺結核	22 B型肝炎	42 甲状腺機能障害
3 慢性気管支炎	23 C型肝炎	43 廃用性筋萎縮
4 骨粗鬆症	24 甲状腺機能異常	44 連鎖球菌肺炎(主)
5 不眠症	25 糖尿病	45 肺結核後遺症
6 腰痛症	26 鉄欠乏性貧血	46 肺癌
7 統合失調症	27 不整脈	47 インフルエンザ
8 便秘症	28 高尿酸血症	48 背部痛
9 急性肝炎	29 梅毒	49 悪性貧血
10 扁桃炎	30 葉酸欠乏症	50 大腿骨頸部外側骨折(主)
11 急性上気道炎	31 肺結核	
12 肺炎	32 白内障(主)	
13 眼底出血	33 肝機能障害	
14 気管支喘息	34 アレルギー性結膜炎	
15 気管支拡張症(主)	35 細菌性肺炎(主)	
16 喀血	36 胸水貯留	
17 急性呼吸不全	37 初老性白内障	
18 中手骨骨折	38 気分障害(主)	
19 前立腺肥大症	39 尿路感染症	
20 手関節骨折	40 肺腫瘍	

患者	地域	年齢	性別	種類	医療機関名	請求点数 (点)	請求金額 (円)	日数 (日)	主病名/傷病名
※2	沖縄県	70代	男性	入院	A病院	7,128	71,280	2	ネフローゼ症候群
				入院	B病院	225,132	2,251,320	142	心不全 気管切開術後 声門下肉芽腫
				入院	C病院	664,748	6,647,480	179	うっ血性心不全 不安定狭心症 前立腺肥大症 気管切開部気道閉塞
				入院	D病院	29,641	296,410	8	喉頭狭窄症
				外来	E診療所	10,990	109,900	5	糖尿病 脳梗塞後遺症 高血圧症 過活動膀胱 他
				外来	F病院	4,103	41,030	3	変形性膝関節症 過活動膀胱 神経因性膀胱 骨粗鬆症 他
				調剤	G薬局	8,804	88,040	4	

傷病名

1 変形性膝関節症(主)	34 慢性胃炎	67 気切部出血
2 過活動膀胱(主)	35 慢性腎不全	68 外傷
3 神経因性膀胱	36 膀胱炎	69 気管切開部気道閉塞(主)
4 糖尿病(主)	37 急性呼吸不全	70 湿疹
5 脳梗塞後遺症(主)	38 2型糖尿病性網膜症	71 気管支炎
6 高血圧症(主)	39 前立腺肥大症(主)	72 気道狭窄
7 便秘増悪	40 咽頭狭窄症	73 肝障害
8 右腸骨部褥瘡増悪	41 低酸素血症	74 腎機能低下
9 膀胱瘻造設後	42 心室頻拍	75 喉頭狭窄症(主)
10 鉄欠乏性貧血	43 誤嚥性肺炎	76 声門下肉芽腫(主)
11 三叉神経痛	44 うっ血性心不全(主)	77 2型糖尿病性肝障害
12 白内障	45 陳旧性前壁中隔心筋梗塞	78 2型糖尿病・多発糖尿病性合併症あり
13 虚血性心疾患	46 2型糖尿病・腎合併症あり	79 2型糖尿病・糖尿病性合併症あり
14 慢性心不全	47 CVA後遺症	80 経皮的冠動脈ステント留置術
15 アレルギー性鼻炎	48 嚥下障害	81 急性気管支炎
16 胃潰瘍	49 廃用症候群	82 慢性動脈閉塞症
17 ネフローゼ症候群	50 心不全(主)	83 全身乾燥
18 褥瘡	51 気管切開術後(主)	84 右足びらん
19 高尿酸血症	52 気管切開術	85 肉芽腫切除後
20 腎不全	53 経尿道的前立腺手術	86 高アンモニア血症
21 白癬	54 膀胱皮膚瘻	87 低蛋白血症
22 閉塞性動脈硬化症	55 膀胱瘻造設術	88 低ナトリウム血症
23 便秘症	56 糖尿病性中心性網膜症	89 創部化膿
24 腰痛症	57 脳卒中後遺症	90 低血糖
25 低ナトリウム血症増悪	58 足白癬	91 陰のう裂創
26 浮腫	59 爪白癬	92 喉頭癌
27 膀胱瘻部皮膚湿疹	60 狭心症	93 2型糖尿病・糖尿病性合併症なし
28 骨粗鬆症	61 2型糖尿病	94 手術創肉芽腫
29 腎癌	62 貧血	95 腎性貧血
30 続発性副甲状腺機能亢進症	63 片麻痺	96 電解質異常
31 低カリウム血症	64 喀痰喀出困難	97 低色素性貧血
32 不安定狭心症(主)	65 心筋梗塞	
33 胸水貯留	66 右膝表皮びらん	

患者	地域	年齢	性別	種類	医療機関名	請求点数 (点)	請求金額 (円)	日数 (日)	主病名/傷病名
※3	沖縄県	70代	男性	入院	A病院	77,390	773,900	60	統合失調症 認知症
				入院	B病院	754,780	7,547,800	141	大葉性肺炎 誤嚥性肺炎 偽膜性大腸炎 クロストリジウム・ディフィシル腸炎
				入院	C病院	325,295	3,252,950	200	統合失調症
				外来	D病院	320	3,200	1	クロストリジウム・ディフィシル腸炎 他
				調剤	E薬局	759	7,590	1	

傷病名

1 統合失調症(主)	21 急性呼吸窮迫症候群	41 心不全
2 認知症(主)	22 肺炎	42 急性気管支炎
3 鉄欠乏性貧血	23 カテーテル感染症	43 湿疹
4 貧血	24 薬剤性腸炎	44 睡眠障害
5 パーキンソン症候群	25 低アルブミン血症	45 下痢症
6 不整脈	26 誤嚥性肺炎(主)	46 葉酸欠乏症
7 気管支喘息	27 偽膜性大腸炎(主)	47 偽膜性腸炎
8 胃潰瘍	28 麻痺性イレウス	48 低コレステロール血症
9 慢性胃腸炎	29 ショック	49 クロストリジウム・ディフィシル腸炎(主)
10 起立性低血圧症	30 多発性期外収縮	50 偽膜性腸炎後の活動性低下による廃用症候群
11 不眠症	31 大腿静脈血栓症	
12 便秘症	32 急性腎盂腎炎	
13 大球性貧血	33 低蛋白血症	
14 播種性血管内凝固	34 発熱	
15 大葉性肺炎(主)	35 感染性腸炎	
16 インフルエンザ	36 高脂血症	
17 肺化膿症	37 過敏性腸症候群	
18 敗血症性ショック	38 肝機能障害	
19 廃用症候群	39 脳梗塞	
20 慢性閉塞性肺疾患	40 仙骨部褥瘡	

患者	地域	年齢	性別	種類	医療機関名	請求点数 (点)	請求金額 (円)	日数 (日)	主病名/傷病名
※4	沖縄県	70代	男性	入院	A病院	345,244	3,452,440	101	S状結腸軸捻転 術後イレウス
				入院	B病院	334,431	3,344,310	274	統合失調症
				外来	C病院	2,449	24,490	1	仙骨部褥瘡 弛緩性神経因性膀胱 他

傷病名

1 水腎症	21 薬剤性パーキンソン症候群
2 膀胱皮膚	22 腰部脊柱管狭窄症
3 膿痂疹	23 胃内ガス貯留
4 脂漏性皮	24 腹部膨満
5 接触皮膚炎	25 びらん性胃炎
6 皮脂欠乏症	26 脳血管障害性パーキンソン症候群
7 仙骨部褥瘡(主)	27 脳出血後遺症
8 弛緩性神経因性膀胱(主)	28 過敏性腸症候群
9 統合失調症(主)	29 低血糖
10 S状結腸軸捻転(主)	
11 廃用症候群	
12 脳出血	
13 嚥下障害	
14 高血圧症	
15 術後イレウス(主)	
16 手術創離開	
17 低ナトリウム血症	
18 低カリウム血症	
19 不眠症	
20 便秘症	

患者	地域	年齢	性別	種類	医療機関名	請求点数 (点)	請求金額 (円)	日数 (日)	主病名/傷病名
※5	沖縄県	90代	女性	入院	A病院	76,166	761,660	24	脳梗塞後遺症
				入院	B病院	434,697	4,346,970	270	脳梗塞後遺症 不全片麻痺
				入院	C病院	115,476	1,154,760	36	敗血症 グラム陰性菌敗血症
				入院	D病院	3,933	39,330	1	アテローム血栓性脳梗塞
				入院	E病院	122,279	1,222,790	40	肺炎
				外来	F病院	3,895	38,950	3	肺炎 誤嚥性肺炎 他

傷病名

1 ビタミン欠乏症	31 MRSA感染症	61 腹膜炎
2 低ナトリウム血症	32 C型肝炎	62 胆管炎
3 インフルエンザ	33 貧血	63 急性胆管炎
4 気管支喘息	34 心不全	64 イレウス
5 気管支喘息重積発作	35 急性気管支炎	65 急性胆のう炎
6 菌血症	36 逆流性食道炎	66 <u>グラム陰性菌敗血症(主)</u>
7 高血圧症	37 変形性股関節症	67 <u>アテローム血栓性脳梗塞(主)</u>
8 脱水症	38 変形性腰椎症	
9 尿路感染症	39 構音障害	
10 <u>肺炎(主)</u>	40 嚥下障害	
11 誤嚥性肺炎(主)	41 大腿骨頸部骨折	
12 <u>脳梗塞後遺症(主)</u>	42 腎機能低下	
13 老年期認知症による摂食障害	43 梅毒	
14 肺炎による廃用症候群	44 <u>不全片麻痺(主)</u>	
15 <u>敗血症(主)</u>	45 不眠	
16 低カルシウム血症	46 上肢麻痺	
17 低カリウム血症	47 湿疹	
18 特発性拡張型心筋症	48 老人性乾皮症	
19 胃潰瘍	49 胃瘻造設状態	
20 亜イレウス	50 胃瘻	
21 肝機能障害	51 栄養失調	
22 喀痰喀出困難	52 カンジダ性湿疹	
23 急性呼吸不全	53 擦過創	
24 うっ血性心不全	54 不全麻痺	
25 僧帽弁閉鎖不全症	55 溶連菌感染症	
26 中葉肺癌	56 慢性心不全	
27 難治性逆流性食道炎	57 嚥下困難	
28 便秘症	58 腹部膨満	
29 老年期認知症	59 左下肢びらん	
30 低酸素血症	60 胃瘻周囲膿瘍	

患者	地域	年齢	性別	種類	医療機関名	請求点数 (点)	請求金額 (円)	日数 (日)	主病名/傷病名
※6	沖縄県	80代	男性	入院	A病院	243,830	2,438,300	96	肝のう胞 廃用症候群
				入院	B病院	125,518	1,255,180	76	ピック病 肝のう胞 廃用症候群
				入院	C病院	239,161	2,391,610	170	躁うつ病
				入院	D病院	81,427	814,270	22	肝のう胞 多発性肝膿瘍
				外来	E病院	2,006	20,060	4	躁うつ病 狭心症 気管支喘息 食欲不振 胃潰瘍 便秘症 他
				外来	F医院	3,294	32,940	5	気管支喘息(重症難治性) 狭心症 栄養失調 気管支喘息 他
				外来	Gクリニック	1,627	16,270	2	肝のう胞 慢性中耳炎 耳鳴症 めまい 他
				外来	D病院	3,284	32,840	2	下肢浮腫 胸部異常陰影 食欲不振 栄養失調 他
				調剤	H薬局	39	390	2	
				調剤	I薬局	877	8,770	1	
				調剤	J薬局	212	2,120	1	
				調剤	K薬局	1,546	15,460	1	
				調剤	L薬局	374	3,740	1	
				調剤	M薬局	438	4,380	1	
				調剤	N薬局	2,941	29,410	1	

傷病名

1 気管支喘息(重症難治性)(主)	31 甲状腺機能低下症	61 リンパ節腫大
2 皮脂欠乏症	32 脱水症	62 ピック病(主)
3 前立腺癌	33 低血糖	63 MRSA感染症
4 糖尿病	34 経口摂取困難	64 心房細動
5 狭心症	35 慢性中耳炎(主)	65 殿部褥瘡
6 不整脈	36 外耳	66 腹部膨満
7 心不全	37 耳鳴	67 下痢症
8 慢性副鼻腔炎	38 めま	68 肺結核
9 アレルギー性鼻炎	39 インフルエンザ	
10 閉塞性動脈硬化症	40 逆流性食道炎	
11 非弁膜症性心房細動	41 肝のう胞(主)	
12 躁うつ病(主)	42 多発性肝膿瘍(主)	
13 鉄欠乏性貧血	43 廃用症候群(主)	
14 気管支喘息	44 腹水	
15 胃潰瘍	45 老年期認知症	
16 仙骨部褥瘡	46 胆のう炎	
17 口渇症	47 食欲不振	
18 不眠症	48 前腕擦過創	
19 統合失調感情障害	49 統合失調症	
20 便秘症	50 下肢浮腫(主)	
21 高脂血症	51 貧血	
22 痛風	52 深部静脈血栓症	
23 好酸球増加症	53 肺炎	
24 慢性肝炎	54 アルツハイマー型認知症	
25 脂肪肝	55 皮膚感染症	
26 腎炎	56 褥瘡	
27 動悸	57 脳挫	
28 胸痛	58 認知症	
29 栄養失調	59 胸部異常陰影(主)	
30 肝硬変症	60 肺癌	

患者	地域	年齢	性別	種類	医療機関名	請求点数 (点)	請求金額 (円)	日数 (日)	主病名/傷病名
※7	沖縄県	70代	男性	入院	A病院	493,525	4,935,250	102	肺炎 心原性脳塞栓症 嚥下障害 上部消化管出血 腸糞線虫症
				入院	B病院	50,250	502,500	19	躯幹帯状疱疹 帯状疱疹 背部皮膚潰瘍
				入院	C病院	429,069	4,290,690	118	心原性脳塞栓症
				外来	D医院	2,950	29,500	9	鼻炎 痛風 気管支喘息 高血圧症 心筋梗塞 便秘症 腰痛症 心筋梗塞 他
				外来	B病院	552	5,520	4	躯幹帯状疱疹 帯状疱疹 背部皮膚潰瘍 心臓弁膜症 気管支喘息 高尿酸血症 神経障害性疼痛 便秘症 高血圧症 他
				外来	Eクリニック	332	3,320	1	慢性穿孔性中耳炎 他
				外来	A病院	5,522	55,220	10	心不全 肺炎 大動脈弁閉鎖不全症 糖尿病 高尿酸血症 気管支喘息発作 神経障害性疼痛 他
				調剤	F薬局	68	680	5	
				調剤	G薬局	1,011	10,110	4	

傷病名

1 鼻炎(主)	31 骨髄増殖性疾患	61 胃潰瘍
2 痛風	32 大動脈弁閉鎖症	62 穿孔性中耳炎
3 気管支喘息	33 大動脈弁閉鎖不全症	63 胃瘻
4 高血圧症	34 尿路感染症	64 眼脂
5 心筋梗塞	35 脳梗塞	65 緑内障
6 便秘症	36 肺結核	66 眼瞼結膜炎
7 腰痛症	37 廃用症候群	67 眼内レンズ挿入眼
8 心不全(主)	38 不眠症	68 <u>上部消化管出血(主)</u>
9 <u>肺炎(主)</u>	39 慢性閉塞性肺疾患	69 症候性てんかん
10 敗血症	40 皮下血腫	70 脳梗塞後遺症
11 糖尿病	41 <u>躯幹帯状疱疹(主)</u>	71 <u>腸糞線虫症(主)</u>
12 鉄欠乏性貧血	42 狭心症	72 細菌性腸炎
13 プロトロンビン欠乏症	43 <u>背部皮膚潰瘍(主)</u>	73 急性腸炎
14 好酸球増加症	44 帯状疱疹後神経痛	74 B型肝炎
15 症状精神病	45 心臓弁膜症	75 大腸癌
16 末梢神経炎	46 るいそう	76 血液凝固異常
17 心房細動	47 <u>帯状疱疹(主)</u>	77 結核
18 心室期外収縮	48 神経障害性疼痛	78 慢性下痢症
19 慢性心不全	49 誤嚥性肺炎	79 サイトメガロウイルス腸炎
20 気管支炎	50 中大脳動脈閉塞症	80 胃瘻造設状態
21 慢性気管支炎	51 <u>心原性脳塞栓症(主)</u>	81 クロストリジウム・ディフィシル腸炎
22 気管支喘息重積発作	52 片麻痺	82 低カリウム血症
23 気管支喘息発作	53 冠状動脈硬化症	
24 慢性胃炎	54 慢性心房細動	
25 食欲不振	55 遷延性意識障害	
26 高尿酸血症	56 <u>嚥下障害(主)</u>	
27 急性呼吸不全	57 失語症	
28 うっ血性心不全	58 嚥下困難	
29 急性心筋梗塞	59 <u>慢性穿孔性中耳炎(主)</u>	
30 急性胆のう炎	60 片頭痛	

3) 重複受診者の詳細

一般的に重複受診者の受診理由としては、①人間関係維持のための受診(医師に忘れられないように時々受診する)、②その病院に通院中でなければ救急の際に受け入れてもらえない不安(それを避けるための受診)、③ドクターショッピング(自分の納得がいく説明、治療、対応を受けられないと、別の医療機関を探す)、④不定愁訴・サロン受診(身体の調子が悪い、腰が痛い、目が悪いなどの不定愁訴が多く、複数の医療機関に頻繁にかかる)などが考えられます。

次ページ以降に総レセプト枚数の多い上位3名の詳細を示します。傷病名のうち、主傷病名は病名の後に(主)と記載しています。3名は、同じ診療科でも複数の病院・診療所を受診(皮膚科、眼科、整形外科、耳鼻咽喉科、内科系など)、しています。これらでは、病名が同じまたは類似していることが多くありました。その他、特記すべき事は、3名全員が不安神経症やうつ病などの精神疾患を有していること、脳神経外科や皮膚科など専門診療科クリニックが他医療機関と重複して高血圧症、脂質異常症といった主要な慢性疾患の加療を行っていることです。

この3名をはじめとし、重複受診者には、保健師や看護師等による質の高いケースマネジメントによって疾病管理・症状マネジメント、そして医療サービスの整理・調整等が必要と考えられます。

表 32 レセプト総枚数が多い患者上位3名の詳細

患者	地域	年齢	性別	種類	医療機関名	請求点数 (点)	請求金額 (円)	日数 (日)	主病名/傷病名
1	沖縄県	80代	男性	入院	A病院	49,019	490,190	14	変形性足関節症
				入院	B病院	44,062	440,620	11	肺炎球菌肺炎
				外来	C耳鼻咽喉科	6,242	62,420	14	アレルギー性鼻炎 慢性副鼻腔炎 急性咽頭喉頭炎 滲出性中耳炎 外耳炎 他
				外来	A病院	2,834	28,340	8	変形性足関節症 変形性膝関節症 腰痛症 他
				外来	D病院	39,967	399,670	34	高脂血症 不安定狭心症 心房細動
				外来	E病院	70	700	1	変形性腰椎症 2型糖尿病 変形性足関節症 腰痛症 非弁膜症性心房細動 他
				外来	F眼科	5,285	52,850	5	ドライアイ 緑内障 混合乱視 眼瞼炎 他
				外来	G眼科医院	718	7,180	1	ドライアイ 白内障 眼瞼皮膚炎
				外来	H耳鼻咽喉科	1,532	15,320	1	滲出性中耳炎 急性副鼻腔炎 急性気管支炎 他
				外来	I耳鼻咽喉科	993	9,930	1	急性副鼻腔炎 急性咽頭喉頭炎 他
				外来	Jクリニック	4,963	49,630	3	多発性脳梗塞 期外収縮 他
				外来	K内科医院	8,783	87,830	26	糖尿病 急性気管支炎 腰痛症 狭心症 頻脈性不整脈 他
				外来	L整形外科	18,278	182,780	66	変形性関節症 腰痛症 他
				外来	Mクリニック	43,595	435,950	79	変形性関節症 狭心症 他
				外来	N病院	1,732	17,320	1	胃潰瘍 他
				外来	O病院	872	8,720	2	内痔核 他
				外来	P眼科	1,066	10,660	1	ドライアイ 混合乱視 他
				外来	Q皮膚科	340	3,400	1	皮膚そう痒症
				外来	R耳鼻咽喉科	986	9,860	1	急性副鼻腔炎 急性気管支炎 他
				外来	B病院	1,658	16,580	2	急性上気道炎 他
				外来	S耳鼻咽喉科	1,940	19,400	4	滲出性中耳炎 他
				調剤	T薬局	53,911	539,110	29	
				調剤	U薬局	4,894	48,940	12	
				調剤	V薬局	9,169	91,690	29	
				調剤	W薬局	311	3,110	1	
				調剤	X薬局	424	4,240	1	
				調剤	Y薬局	385	3,850	1	
調剤	Z薬局	57,085	570,850	31					
調剤	AA薬局	5,738	57,380	18					
調剤	AB薬局	1,409	14,090	3					
調剤	AC薬局	867	8,670	2					
調剤	AD薬局	509	5,090	1					
調剤	AE薬局	219	2,190	1					
調剤	AF薬局	386	3,860	1					
調剤	AG薬局	1,406	14,060	4					

1 多発性脳梗塞(主)	31 脂質異常症	61 頸部痛
2 緑内障(主)	32 食道カンジダ症	62 腰部脊柱管狭窄症
3 混合乱視(主)	33 滲出性中耳炎	63 肋骨骨折
4 角膜びらん	34 急性副鼻腔炎	64 急性咽頭炎
5 眼瞼炎	35 アレルギー性鼻炎(主)	65 筋筋膜性腰痛症(主)
6 腫瘍	36 末梢性めまい症	66 末梢神経障害性疼痛
7 ドライアイ	37 外耳炎	67 皮膚そう痒症
8 眼内レンズ挿入眼	38 慢性副鼻腔炎	68 左足人工関節置換術後
9 高脂血症	39 急性咽頭喉頭炎	69 不安神経症
10 不安定狭心症	40 めまい症	70 変形性足関節症(主)
11 心房細動	41 糖尿病	71 変形性腰椎症(主)
12 不整脈	42 貧血	72 骨粗鬆症
13 慢性心不全	43 狭心症(主)	73 頭痛
14 逆流性食道炎	44 急性上気道炎(主)	74 神経痛
15 慢性胃炎	45 急性気管支炎	75 疼痛
16 変形性膝関節症	46 頸肩腕症候群	76 運動器不安定症
17 頸腕神経痛	47 肩関節周囲炎(主)	77 神経障害性疼痛
18 高尿酸血症	48 筋肉痛	78 黄斑変性
19 胃炎	49 全身倦怠感	79 肛門脱(主)
20 高血圧症(主)	50 脱水症	80 内痔核(主)
21 前立腺肥大症(主)	51 末梢神経障害	81 肺炎球菌肺炎(主)
22 陳旧性心筋梗塞	52 腰痛症(主)	
23 動脈硬化症	53 めまい(主)	
24 脳梗塞	54 メニエール病(主)	
25 頻尿症	55 末梢神経炎	
26 不眠症	56 急性湿疹	
27 便秘症	57 変形性関節症	
28 2型糖尿病・糖尿病性合併症なし	58 股関節痛	
29 PTCA術後	59 足関節痛	
30 過活動膀胱	60 変形性脊椎症	

患者	地域	年齢	性別	種類	医療機関名	請求点数 (点)	請求金額 (円)	日数 (日)	主病名/傷病名
2	沖縄県	80代	男性	外来	A整形外科	2,970	29,700	14	骨粗鬆症 頸椎椎間板症 不眠症 他
				外来	Bクリニック	9,060	90,600	25	高血圧症 高脂血症 脳梗塞後遺症 他
				外来	Cクリニック	4,779	47,790	11	軽症うつ病エピソード 不眠症 他
				外来	D病院	12,064	120,640	12	腰部脊柱管狭窄症 高血圧症 他
				外来	E眼科	34,920	349,200	17	白内障 遠視性乱視 他
				外来	F病院	4,341	43,410	5	高血圧症 内頸動脈狭窄症 高脂血症 他
				外来	G皮膚科	1,394	13,940	5	皮脂欠乏性湿疹 他
				外来	H整形外科	36,600	366,000	63	変形性膝関節症 高血圧症 他
				外来	I皮膚科	916	9,160	4	皮膚カンジダ症 他
				外来	J耳鼻咽喉科	3,174	31,740	8	アレルギー性鼻炎 慢性中耳炎
				外来	K耳鼻咽喉科	1,407	14,070	2	急性副鼻腔炎 アレルギー性鼻炎 他
				外来	L診療所	2,390	23,900	5	うつ病 不眠症 他
				外来	M耳鼻咽喉科	428	4,280	1	慢性穿孔性中耳炎 アレルギー性鼻炎
				調剤	N薬局	7,492	74,920	9	
				調剤	O薬局	38,919	389,190	48	
				調剤	P薬局	4,608	46,080	13	
				調剤	Q薬局	665	6,650	2	
				調剤	R薬局	3,620	36,200	8	
				調剤	S薬局	1,095	10,950	1	
				調剤	T薬局	754	7,540	2	
				調剤	U薬局	1,582	15,820	5	
				調剤	V薬局	180	1,800	1	
				調剤	W薬局	386	3,860	1	

傷病名

1 高脂血症(主)	16 肩関節腱板炎	31 眼内レンズ挿入眼(主)
2 不安神経症	17 内頸動脈狭窄症(主)	32 うつ病(主)
3 脳梗塞後遺症	18 腰痛症	33 肩関節性周囲炎(主)
4 逆流性食道炎	19 急性ストレス反応(主)	34 慢性結膜炎(主)
5 胃潰瘍(主)	20 軽症うつ病エピソード	35 急性副鼻腔炎(主)
6 頸動脈硬化症	21 前立腺肥大症(主)	
7 高血圧症(主)	22 脳血管障害	
8 不眠症	23 腰部脊柱管狭窄症	
9 便秘症	24 顔面痙攣症	
10 虚血性脳血管障害(主)	25 限局性外耳道炎	
11 変形性膝関節症(主)	26 慢性中耳炎(主)	
12 頸椎症(主)	27 アレルギー性鼻炎	
13 変形性脊椎症(主)	28 近視性乱視	
14 頸椎椎間板症	29 混合乱視	
15 骨粗鬆症(主)	30 術後結膜炎(主)	

患者	地域	年齢	性別	種類	医療機関名	請求点数 (点)	請求金額 (円)	日数 (日)	主病名/傷病名
3	沖縄県	80代	男性	外来	Aクリニック	270	2,700	1	腰部脊柱管狭窄症 難治性疼痛 腰痛症 他
				外来	B耳鼻咽喉科	2,214	22,140	5	外耳炎 急性副鼻腔炎 他
				外来	Cクリニック	3,383	33,830	10	ラクナ梗塞 頸椎椎間板ヘルニア 腰痛症 高トリグリセライド血症 糖尿病 高血圧症 他
				外来	D胃腸科内科	4,880	48,800	2	糖尿病 慢性胃炎 便秘症 他
				外来	E皮フ科	676	6,760	2	魚鱗癬 慢性湿疹
				外来	F医院	2,541	25,410	3	高血圧症 心房細動 他
				外来	G病院	2,420	24,200	2	変形性腰椎症 腰部脊柱管狭窄症 他
				外来	H眼科	4,328	43,280	10	ドライアイ 眼内レンズ挿入眼 他
				外来	I泌尿器科	2,211	22,110	6	前立腺肥大症 前立腺癌 他
				外来	J皮フ科クリニック	1,086	10,860	3	鶏眼 膿痂疹性湿疹 他
				外来	K内科医院	10,167	101,670	24	高血圧症 不安神経症 狭心症 他
				外来	L病院	9,931	99,310	8	狭心症 不整脈 他
				外来	Mクリニック	2,360	23,600	3	大腸癌 便秘症
				外来	N整形外科医院	19,813	198,130	177	坐骨神経痛 変形性膝関節症
				外来	O病院	2,800	28,000	1	不整脈 他
				外来	P病院	2,360	23,600	2	ラクナ梗塞 内頸動脈狭窄症
				調剤	Q薬局	4,987	49,870	13	
				調剤	R薬局	10,627	106,270	11	
				調剤	S薬局	1,651	16,510	4	
				調剤	T薬局	4,724	47,240	10	
調剤	U薬局	170	1,700	1					
調剤	V薬局	38,017	380,170	24					
調剤	W薬局	1,145	11,450	2					

傷病名

1 不安神経症	16 頸椎椎間板ヘルニア(主)	31 変形性膝関節症
2 狭心症	17 腰部脊柱管狭窄症	32 強直性脊椎炎
3 期外収縮	18 頸肩部筋肉痛	33 頸肩腕症候群
4 ラクナ梗塞(主)	19 こむら返り	34 坐骨神経痛(主)
5 慢性胃炎	20 末梢神経障害性疼痛	35 肩関節周囲炎
6 高血圧症(主)	21 高眼圧症	36 示指切創
7 前立腺肥大症(主)	22 混合乱視	37 魚鱗癬(主)
8 不眠症(主)	23 老視	38 変形性腰椎症
9 腰痛症(主)	24 慢性結膜炎	39 大腸癌(主)
10 頻脈性不整脈	25 生理的飛蚊症	40 内頸動脈狭窄症(主)
11 糖尿病	26 ドライアイ(主)	41 不整脈
12 高トリグリセライド血症	27 眼内レンズ挿入眼	
13 不安うつ病	28 前立腺癌	
14 咽頭炎	29 膀胱癌	
15 主婦湿疹	30 皮膚感染症左示指切創部	

3. 医療機関・処置に関する分析

1) 県内・県外の医療機関入院状況

沖縄県内・県外の医療機関における入院状況について示します。入院先医療機関の地域や機能分類が不明であるものを除いて集計を行いました。

その結果、入院レセプト点数で見ると、沖縄県内医療機関入院点数のうち、急性期病院入院点数の割合は、56.9%であり、県外医療機関としては、各診療科専門医が所属する施設、専門医の配置や先進医療が整っている大学病院等総合病院が多くみられました。

表 33 県内・県外の入院状況（機能分類が不明なものを除く）

区 分	請求点数(点)	入院点数比率(%)
沖縄県内医療機関入院点数	6,312,011,073	89.1
上記のうち、急性期病院入院点数	3,594,549,902	56.9
県外施設入院点数	767,177,674	10.8
被保険者入院点数合計	7,079,188,747	100

2) 高度救命医療の利用状況

年齢別にみた高度救命医療に関する診療報酬点数(救命救急入院料、特定集中治療室管理料、ハイケアユニット入院医療管理料、脳卒中ケアユニット入院医療管理料)を利用した患者人数、総医療費点数、患者一人当たりの点数を示します。

一人あたりの医療費を見ると、「75-84歳」に比べ「85歳以上」の医療費が低くなっています。

表 34 年齢別にみた、高度救命医療の利用状況

年 齢	救命救急・特定集中治療室・ハイケアユニット			脳卒中ケアユニット		
	患者人数(人)	医療費点数(点)	患者一人あたり点数(点)	患者人数(人)	医療費点数(点)	患者一人あたり点数(点)
65-74歳	123	34,868,947	283,487	7	902,542	128,935
75-84歳	2,920	724,794,569	248,217	72	11,020,015	153,056
85歳以上	1,551	271,888,924	175,299	32	4,261,013	133,157
総計	4,594	1,031,552,440	224,543	111	16,183,570	145,798

※ 1点=10円

以下に、表 34 の患者がもつ主病名一覧を示します。上位には、心疾患、脳血管疾患、感染症、悪性新生物、腎疾患が並んでいました。

表 35 「表 34」の患者がもつ主病名一覧 ※複数の病名を持つ者あり。既往を含む。

順位	傷病名	患者数(人)
1	心疾患(心筋梗塞・大動脈解離/破裂以外)	1,327
2	脳卒中	1,180
3	感染症	1,024
4	悪性新生物	975
5	慢性心不全	741
6	骨折	507
7	慢性腎不全	299
8	精神疾患	258
9	心筋梗塞	235
10	慢性閉塞性肺疾患	224
11	神経変性疾患	120
12	イレウス	119
13	消化管出血・穿孔	119
14	慢性呼吸不全(慢性閉塞性肺疾患以外)	94
15	敗血症性ショック	82
16	急性硬膜下血腫	79
17	自己免疫疾患	76
18	急性呼吸不全	67
19	外傷性脳出血	52
20	急性心不全	50
21	外傷性脳内血腫	33
22	脳挫傷	21
23	大動脈瘤解離	18
24	硬膜下血腫	16
25	出血性ショック	12
26	外傷性血気胸	10
27	大動脈瘤破裂	8
28	ショック(原因不明)	6
29	急性硬膜外血腫	5
30	硬膜下出血	5

3)在宅医療の利用状況

在宅医療に関する診療報酬(在宅中心静脈栄養法指導管理料、在宅人工呼吸指導管理料、在宅酸素療法指導管理料)を算定している患者の人数、総医療費点数、患者一人当たりの点数を示します。なお、在宅人工呼吸指導管理料には、非侵襲的陽圧換気法(NIPPV)を実施している者も含まれます。

今後、在宅医療へのニーズが高まっていく中で、高齢者が在宅医療を利用しやすい環境づくりを行っていくことが重要となっていきます。

表 36 年齢別にみた、在宅医療の利用状況

年 齢	在宅中心静脈栄養法			在宅人工呼吸			在宅酸素療法		
	患者 人数 (人)	医療費点数 (点)	患者一人 あたり 点数(点)	患者 人数 (人)	医療費点数 (点)	患者一人 あたり 点数(点)	患者 人数 (人)	医療費点数 (点)	患者一人 あたり 点数(点)
65-74歳				20	2,632,528	131,626	41	2,415,257	58,909
75-84歳	6	446,014	74,336	66	6,803,184	103,079	650	59,652,222	91,773
85歳以上	1	22,225	22,225	20	2,176,489	108,824	551	43,922,784	79,715
総計	7	446,014	63,716	106	11,612,201	109,549	1,243	105,998,081	85,276

※ 1点=10円

4. 人工透析(血液透析)に関する分析

1) 血液透析患者の概要(2014年2月時点)

沖縄県における血液透析患者数を表に示します。透析患者総数は936人で、全体では男性449人(48.0%)、女性487人(52.0%)とやや女性が多くなっています。年齢別にみると、最も多いのが「75-79歳」330人(35.3%)で、次いで「80-84歳」280人(29.9%)、「85-89歳」145人(15.5%)でした。

後期患者の血液透析受療状況で注目すべきことは、患者総数に対する入院受療した人の割合の高さです(男性33.4%、女性38.6%)。加齢により高くなる傾向がみられ(85歳以上の患者で約5割)、これは、全身状態悪化により入院管理のもとに透析しなければならない者や終末期加療(看取り含む)を受ける者の割合が増えているためと考えられます。

表37 血液透析患者の概要

		65-69歳	70-74歳	75-79歳	80-84歳	85-89歳	90歳以上	総数
①透析患者総数(人) ※1								
男性		17	73	164	129	46	20	449
内 訳	入院	4	19	49	52	18	8	150
	割合	23.5%	26.0%	29.9%	40.3%	39.1%	40.0%	33.4%
	外来	13	54	115	77	28	12	299
	割合	76.5%	74.0%	70.1%	59.7%	60.9%	60.0%	66.6%
女性		7	32	166	151	99	32	487
内 訳	入院	0	10	50	65	45	18	188
	割合	0.0%	31.3%	30.1%	43.0%	45.5%	56.3%	38.6%
	外来	7	22	116	86	54	14	299
	割合	100.0%	68.8%	69.9%	57.0%	54.5%	43.8%	61.4%
男女計		24	105	330	280	145	52	936
内 訳	入院	4	29	99	117	63	26	338
	割合	16.7%	27.6%	30.0%	41.8%	43.4%	50.0%	36.1%
	外来	20	76	231	163	82	26	598
	割合	83.3%	72.4%	70.0%	58.2%	56.6%	50.0%	63.9%
②透析患者構成割合(%)								
男性		3.8	16.3	36.5	28.7	10.2	4.5	100.0
女性		1.4	6.6	34.1	31.0	20.3	6.6	100.0
男女計		2.6	11.2	35.3	29.9	15.5	5.6	100.0
③透析患者が使用する医療費合計(点) ※2								
男性		1,126,016	4,736,485	11,346,294	8,300,531	2,568,148	1,121,665	29,199,139
内 訳	入院	177,064	1,658,741	4,325,922	4,071,440	1,514,024	549,760	12,296,951
	外来	948,952	3,077,744	7,020,372	4,229,091	1,054,124	571,905	16,902,188
女性		360,163	2,078,013	9,943,390	10,039,516	5,530,463	1,985,573	29,937,118
内 訳	入院	0	754,730	4,126,542	5,528,005	3,235,268	1,321,691	14,966,236
	外来	360,163	1,323,283	5,816,848	4,511,511	2,295,195	663,882	14,970,882
男女計		1,486,179	6,814,498	21,289,684	18,340,047	8,098,611	3,107,238	59,136,257
④透析費消費割合(%)								
男性		3.9	16.2	38.9	28.4	8.8	3.8	100.0
女性		1.2	6.9	33.2	33.5	18.5	6.6	100.0
男女計		2.5	11.5	36.0	31.0	13.7	5.3	100.0

※1 入院・外来両方にカウントされている者もあり

※2 透析管理料を含む入院・外来医療費を算出

表 38 性別、年齢別にみた血液透析患者の一人当たり入院医療費（2014年2月分）

性別	年齢別一人当たり入院レセプト請求点数(点)					
	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80-84歳	85-89歳	90歳以上
男性	44,266	87,302	88,284	78,297	84,112	68,720
女性	0	75,473	82,531	85,046	71,895	73,427

※ 1点=10円

図 24 年齢階級別にみた血液透析患者数

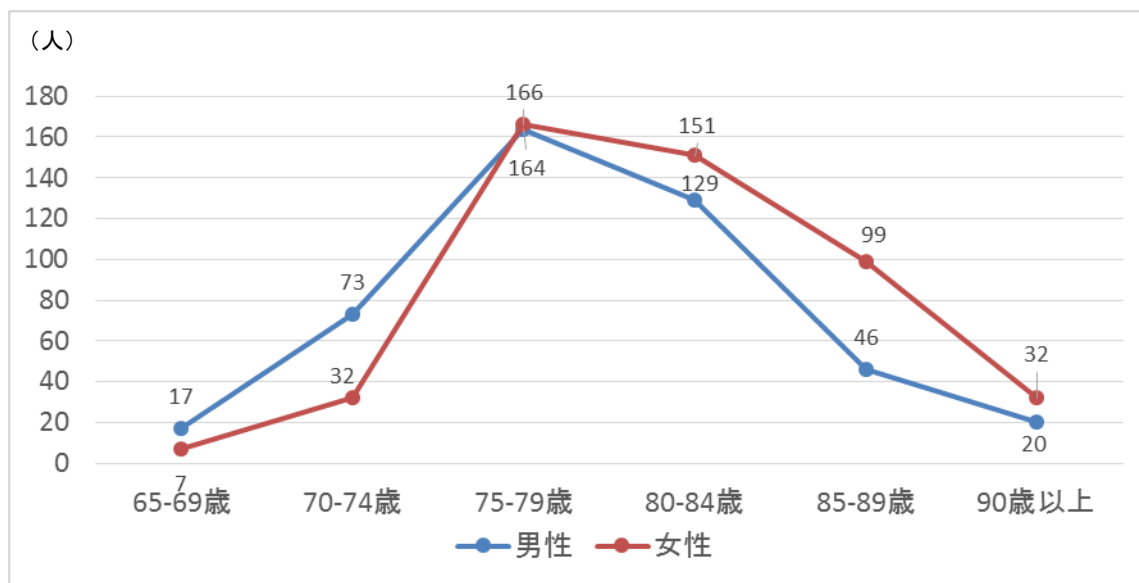
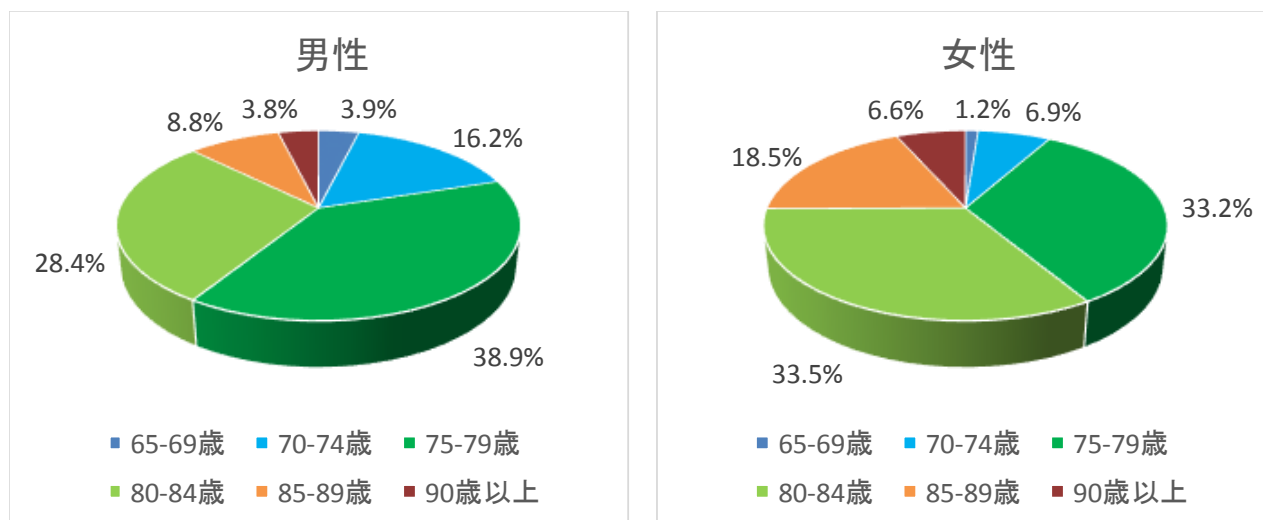


図 25 性別、年齢別にみた人工透析（血液透析）費使用割合（%）



2) 血液透析患者が持つ病名に関する分析

年齢区分別に集計した、患者がもつ傷病名(腎不全や腎機能低下に関わる危険因子と思われる病名)を表 39 に示します。後期高齢患者で上位を占めていたのは、高血圧、心疾患、整形外科疾患(骨折以外)、糖尿病、脂質異常症等であり、生活習慣病を有するものも多く含まれていました。またうつ病、統合失調症等精神疾患を有する者も 122 人おり、腎機能低下を予防するための食事、活動、服薬等が困難な事例もあることが推察されます。精神疾患患者では糖尿病を発症、重症化させる副作用をもつ薬剤(多くの向精神薬は血糖値を上昇させる副作用をもつ)が使用される割合も高く、このこともリスクを高める一因と考えられます。

表 39 血液透析患者がもつ病名 上位 20 位

順位	傷病名(ICD-10コード)	患者数
1	高血圧症	344
2	心疾患	292
3	整形外科疾患(骨折以外)	248
4	糖尿病	214
5	脂質異常症	193
6	心不全	184
7	高尿酸血症	177
8	脳血管障害	164
9	精神疾患	122
10	悪性腫瘍(腎以外)	97
11	骨折	88
12	腎のう胞	66
13	認知症	65
14	感染症	46
15	慢性糸球体腎炎・腎炎	38
16	自己免疫疾患	29
17	神経変性疾患	25
18	てんかん	17
19	腎悪性腫瘍	3
20	アミロイドーシス	2

※複数病名を持つ者あり

5. 心不全患者に関する分析

1) 心不全患者の概要

沖縄県後期高齢者制度被保険者のうち、傷病名に心不全(ICD10コード:I50)をもつ患者の概要を示します。なお、ICD10コード:I50 心不全は、具体的に以下の傷病名を含んでいます。

- ・うっ血性心不全 ・右室不全 ・右心不全 ・心臓性浮腫 ・慢性うっ血性心不全
- ・左室不全 ・左心不全 ・心原性肺水腫 ・心臓性呼吸困難 ・心臓喘息
- ・急性心不全 ・心筋不全 ・心不全 ・慢性心不全 ・両心不全

性別、年齢別に患者数を分析した結果、外来受療者の総数は、23,141人で、年齢別にみると、最も多い年齢は、「75-84歳」13,821人(59.7%)で、次いで「85歳以上」8,634人(37.3%)、「65-74歳」686人(3.0%)でした。

入院受療者の総数は、8,230人で、最も多い年齢は、「85歳以上」4,207人(51.1%)で、次いで「75-84歳」3,810人(46.3%)、「65-74歳」213人(2.6%)でした。

性別にみると、外来受療において最も多い年齢は、男女ともに「75-84歳」、次いで、「85歳以上」、「65-74歳」でした。入院受療においては、男性では「75-84歳」が最も多く、次いで、「85歳以上」、「65-74歳」で、女性では「85歳以上」が最も多く、次いで、「74-84歳」、「65-74歳」でした。

「85歳以上」の入院受療者の割合が外来受療者の割合に比べて増加しており、外来受療から入院受療への移行が伺えます。

表 40 心不全の傷病名をもつ患者の概要

年齢	患者数(人)			割合(%)		
	男性	女性	男女合計	男性	女性	男女合計
外来受療者数						
65-74歳	430	256	686	4.5	1.9	3.0
75-84歳	6,584	7,237	13,821	69.1	53.1	59.7
85歳以上	2,508	6,126	8,634	26.3	45.0	37.3
小計	9,522	13,619	23,141	100.0	100.0	100.0
入院受療者数						
65-74歳	135	78	213	4.1	1.6	2.6
75-84歳	1,950	1,860	3,810	59.5	37.6	46.3
85歳以上	1,193	3,014	4,207	36.4	60.9	51.1
小計	3,278	4,952	8,230	100.0	100.0	100.0
総計	12,800	18,571	31,371			

2) 心不全患者の外来受療状況の分析

傷病名に心不全の病名をもつ外来受療者を分析します(主病名か否かは問わない)。

性別、年齢別に外来医療費を分析した結果、総請求点数は610,857,675点(約61億円)で、年齢別にみると、最も請求点数が高い年齢は、「75-84歳」374,529,377点(61.3%)でした。次いで、「85歳以上」197,793,043点(32.4%)、「65-74歳」38,535,255点(6.3%)となっております。

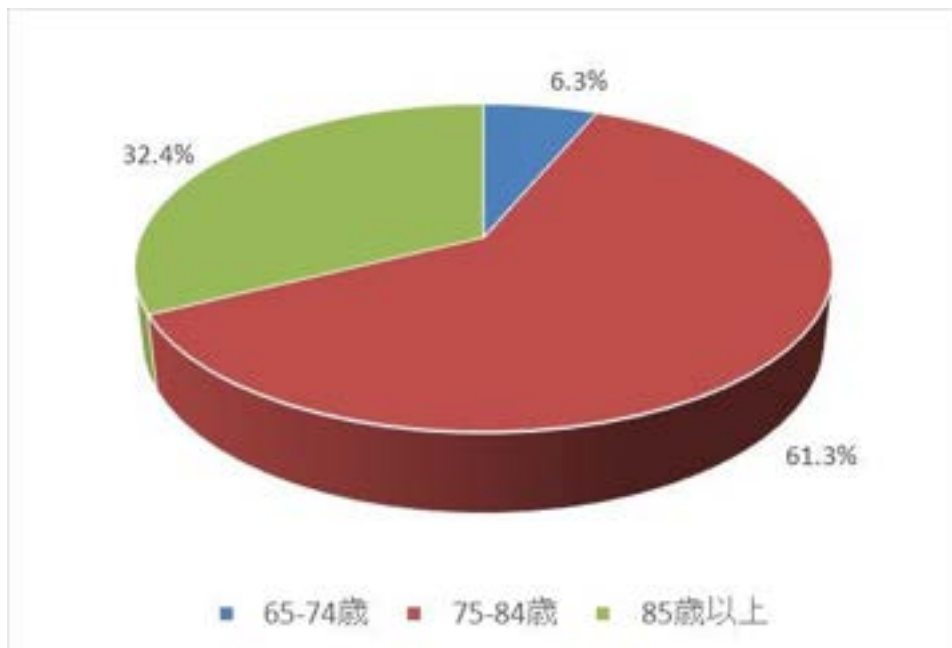
レセプト1枚当たりの点数を年齢別にみると、最も請求点数が高い年齢は、「65-74歳」、次いで、「75-84歳」、「85歳」で、加齢により点数が低くなる傾向がみられます。

また、後期高齢者総外来医療費全体に対する心不全に係る外来医療費の割合は、13.0%となっていました。

表 41 心不全外来受療者のレセプト枚数および医療費の状況

年齢	レセプト枚数(枚)			心不全外来医療費				
	男性	女性	男女合計	合計請求点数 (点)	合計請求金額 (円)	レセプト一枚 当たりの点数 (点)	レセプト一枚 当たりの金額 (円)	外来医療費 合計に対する 割合(%)
65-74歳	2,947	1,799	4,746	38,535,255	385,352,550	8,120	81,200	6.3
75-84歳	57,681	59,714	117,395	374,529,377	3,745,293,770	3,190	31,900	61.3
85歳以上	23,790	57,715	81,505	197,793,043	1,977,930,430	2,427	24,270	32.4
合計	84,418	119,228	203,646	610,857,675	6,108,576,750	3,000	29,996	100.0

図 26 年齢別にみた、心不全外来医療費の使用割合



3) 心不全患者の入院受療状況の分析

(ア) 医療費の概要

主病名に心不全の病名をもつ入院受療者を分析します。

性別、年齢別に入院医療費を分析した結果、総請求点数は 381,284,751 点(約 38 億円)となっていて、年齢別にみると、最も請求点数が高い年齢は、「85 歳以上」199,345,435 点(52.3%)で、次いで、「75-84 歳」175,574,272 点(46.0%)、「65-74 歳」6,365,044 点(1.7%)となっていました。

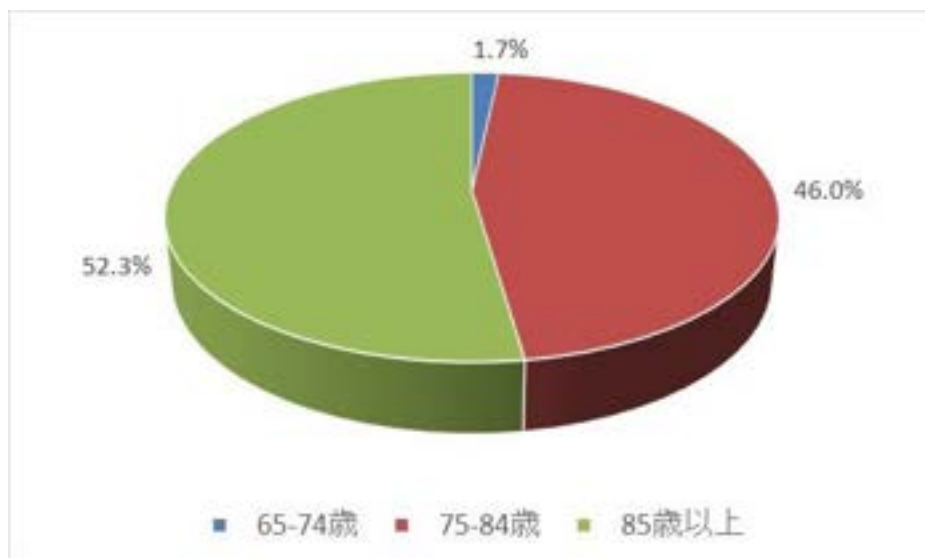
レセプト1枚当たりの点数を年齢別にみると、最も請求点数が高い年齢は、「65-74 歳」、次いで、「75-84 歳」、「85 歳」で、外来医療費と同様に、加齢により点数が低くなる傾向がみられました。

また、後期高齢者総入院医療費全体に対する心不全に係る入院医療費の割合は、5.4%となっていました。

表 42 心不全入院受療者のレセプト枚数および医療費の状況

年齢	レセプト枚数(枚)			心不全入院医療費				
	男性	女性	男女合計	合計請求点数 (点)	合計請求金額 (円)	レセプト1枚 当たりの点数 (点)	レセプト1枚 当たりの金額 (円)	入院医療費合 計に対する割合 (%)
65-74歳	45	29	74	6,365,044	63,650,440	86,014	860,140	1.7
75-84歳	1,278	1,421	2,699	175,574,272	1,755,742,720	65,052	650,520	46.0
85歳以上	859	2,941	3,800	199,345,435	1,993,454,350	52,459	524,590	52.3
合計	2,182	4,391	6,573	381,284,751	3,812,847,510	58,008	580,080	100.0

図 27 年齢別にみた、心不全入院医療費の使用割合



(イ) 病床機能分類からみた医療費の詳細

病床機能分類別、性別、年齢別にみた医療費の分析結果を示します。なお、病床分類では、複数の分類を有している場合、より高度な治療を行う病床を持っている群に分けました。

病床機能別分類にみると、最も請求点数が高い区分は、人工心肺、人工透析、モニター使用による集中管理、カテーテル治療など高度救命処置を行う「高度急性期」(50.1%)で、次いで、「急性期」(37.6%)、「回復期」「慢性期」がそれぞれ(3.1%)となっていて、レセプト一枚当たりの請求点数も「高度急性期」「急性期」が最も高く、次いで「回復期」、「慢性期」となっていました。

表 43 病床機能分類からみた、心不全入院受療者のレセプト枚数および医療費の詳細

年齢	レセプト枚数(枚)			心不全入院医療費				心不全入院 医療費合計に 対する割合 (%)	転帰「死亡」記載	
	男性	女性	男女合計	合計請求点数 (点)	合計請求金額 (円)	レセプト一枚 当たりの点数 (点)	レセプト一枚 当たりの金額 (円)		人数 (人)	総死亡人数に 占める割合 (%)
高度急性期										
65-74歳	30	11	41	3,558,028	35,580,280	86,781	867,810	0.9	0	0
75-84歳	746	812	1,558	105,660,318	1,056,603,180	67,818	678,180	27.7	9	6.6
85歳以上	303	1,241	1,544	81,878,798	818,787,980	53,030	530,300	21.4	37	27.2
小計	1,079	2,064	3,143	191,097,144	1,910,971,440	60,801	608,010	50.1	46	33.8
急性期										
65-74歳	14	17	31	2,748,815	27,488,150	88,671	886,710	0.7	1	0.7
75-84歳	424	305	729	52,598,456	525,984,560	72,152	721,520	13.8	16	11.8
85歳以上	380	1,229	1,609	87,837,190	878,371,900	54,591	545,910	23	47	34.6
小計	818	1,551	2,369	143,184,461	1,431,844,610	60,441	604,410	37.6	64	47.1
回復期										
65-74歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75-84歳	16	139	155	5,370,023	53,700,230	34,645	346,450	1.4	2	1.5
85歳以上	7	121	128	6,491,658	64,916,580	50,716	507,160	1.7	3	2.2
小計	23	260	283	11,861,681	118,616,810	41,914	419,140	3.1	5	3.7
慢性期										
65-74歳	0	1	1	15,773	157,730	0	0	0	0	0
75-84歳	13	126	139	5,755,453	57,554,530	34,645	346,450	1.5	1	0.7
85歳以上	16	116	132	5,954,168	59,541,680	50,716	507,160	1.6	2	1.5
小計	29	243	272	11,725,394	117,253,940	41,914	419,140	3.1	3	2.2
病床分類不明										
65-74歳	1	0	1	42,428	424,280	42,428	424,280	0	0	0
75-84歳	79	39	118	6,190,022	61,900,220	52,458	524,580	1.6	1	0.7
85歳以上	153	234	387	17,183,621	171,836,210	44,402	444,020	4.5	17	12.5
小計	233	273	506	23,416,071	234,160,710	46,277	462,770	6.1	18	13.2
合計	2,182	4,391	6,573	381,284,751	3,812,847,510	58,008	580,077	100.0	136	100.0

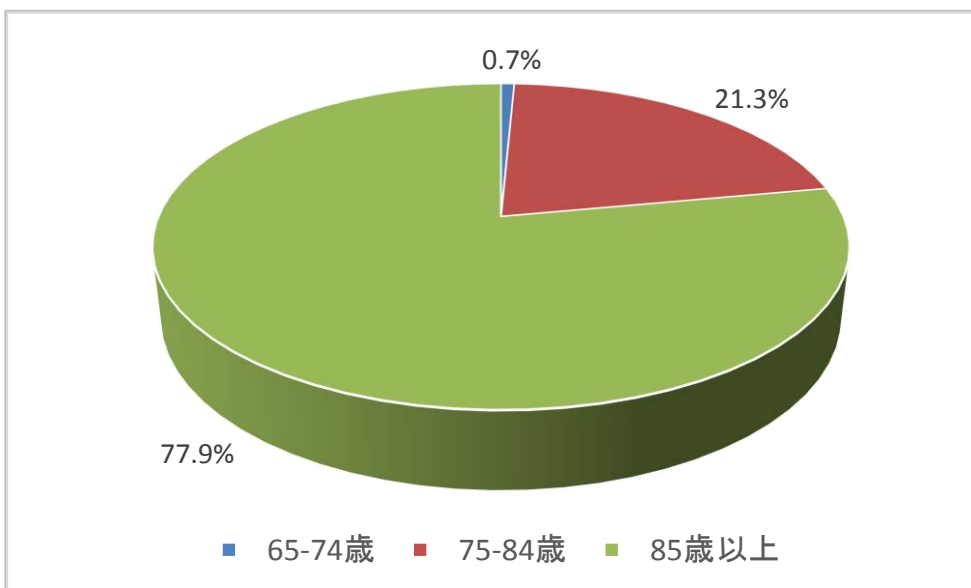
図 28 病床分類別にみた、心不全患者の医療費使用状況



また、特筆すべき事は、レセプト上に転帰が「死亡」と記載されている心不全入院受療者の状況です。レセプトには、主治医の転帰の記載漏れも多く参考値ではありますが、表 43、図 29 に示すように 85 歳以上の受療者が入院後死亡する死亡者数全体の 77.9% を 85 歳以上が占めています。

レセプト一枚当たりの請求点数を比べると、85 歳以上の受療者は「回復期」「慢性期」で、他の年齢と比べて高くなっていますが、「高度急性期」「急性期」では低くなっています。また、85 歳以上の受療者においては、「慢性期」よりも「高度急性期」「急性期」の病棟に入院後に死亡する割合が高いため、心不全の急性増悪や看取り等が目的で「高度急性期」や「急性期」病棟に入院していると推察されます。

図 29 年齢別にみた心不全入院受療者の死亡割合



6. ジェネリック薬品に関する分析

ジェネリック薬品の分析において、2013年3月～2014年2月の1年間の結果を示します。

※後発医薬品が存在するかどうかの判定はその医薬品が処方された月で行うものとします。

1) ジェネリック薬品の使用割合

沖縄県後期高齢者医療制度被保険者におけるジェネリック医薬品の使用割合を以下に示します。

沖縄県後期高齢者医療制度被保険者における全使用医薬品の総数量に対するジェネリック薬品が占める割合は58.2%であり、厚生労働省が設定する目標値60%にほぼ達しています。今後は、さらに厚生労働省が新たに定めた目標値(平成29年央に70%以上、平成32年度末までに80%以上)を目指す必要があります(厚生労働省 最近の調剤医療費の動向より)。

現状として、約4割が先発薬品を使用しているということであり、ジェネリック薬品使用に関し、被保険者へのさらなる情報提供、啓発が必要と考えられます。

ジェネリック使用率(数量)	ジェネリック使用率(金額)
58.2%	38.4%

※ジェネリック使用率(数量)は、「後発数量」/「(後発医薬品が存在する先発数量)+(後発数量)」の式で算出する。

※ジェネリック使用率(金額)は「後発金額」/「(後発医薬品が存在する先発金額)+(後発金額)」の式で算出する。

2) ジェネリック薬品に変更することで削減が予測される費用

先発薬品をジェネリック薬品に変更することで削減が予測される費用を以下に示します。

ジェネリック薬品に変更することで、最大約36億～最小約28億円が削減可能と見込まれます(計算方法は下記参照)。

削減可能金額(最大)	削減可能金額(最小)
3,609,724,356	2,806,282,738

※削減可能金額(最大)は、株式会社データホライズンがジェネリック通知を行う上で優先しているメーカーの後発品がある場合、その金額を、ない場合は全メーカーの金額から一番削減効果の高い金額を合計したのとなっています。

※削減可能金額(最小)は、株式会社データホライズンがジェネリック通知を行う上で優先しているメーカーの後発品がある場合、その金額を、ない場合は全メーカーの金額から一番削減効果の低い金額を合計したのとなっています。

第5章 まとめ

1. 沖縄県後期高齢者医療広域連合被保険者の特徴と対策

(1)後期高齢者医療制度における受療者のうち、医療費請求点数上位1割の受療者が約50%の医療費を使用し、上位2割が約70%の医療費を、上位5割が約90%の医療費を使用しています。そして残りの5割の受療者は全体で約10%の医療費だけしか使用していないことが明らかになりました(P12参照)。医療費が高額となっている原因としては入院や重複受診が考えられます。

→高額医療費使用者である上位2割の被保険者に対しての医療サービスのニーズアセスメントを行い、重複受診や薬剤の重複使用、入退院を繰り返している被保険者への専門的な支援(介入)を行っていく必要があります。

(2)疾病構造の変化として、国保ではがんや精神疾患の傷病名が多いのに対して、後期ではがんの傷病名の割合は下がり、生活習慣病と言われる慢性疾患が上位を占めています。また、難病を有する被保険者のレセプトが70歳代で少なくなることから、がんや難病を有する者の多くは、80歳を前に亡くなっている可能性があります。

→上位疾患は、生活習慣病とも言われる慢性疾患で占められており、予防可能な疾患が並んでいます。これらの発症・重症化・再発予防対策を行うことで、被保険者の健康を維持することが可能となります。

(3)年齢が上がると入院の割合も増加し、85歳以上で入院者の割合が同年代の被保険者の1割を超え、100歳以上では2割が入院加療を受けています。肺炎による入院が多く、大腿骨骨折、心疾患、脳血管疾患が合計金額、人数ともに上位を占めています。

→健診等の結果からハイリスクを抱えていると思われる被保険者に対して予防対策をすることにより入院患者数を抑制できます。また、退院後の再発予防対策も重要となります。

(4)心疾患、脳血管疾患、感染症による救急搬送が多くみられ、高度救命医療が行われている急性期病院への入院が高い医療費割合を占めています。これらの被保険者の病名には、高度医療機関で重篤な状態に対して行われる医療処置に関連した病名が挙げられています。

→日常的に疾病管理を行い、急性増悪を減らすことで高度医療機関への適切な(救急)搬送を行うことができます。また、近年関心が高まっている「終末期医療」についても検討し、在宅や介護福祉施設等で看取りを行うことが出来れば入院や入院の長期化を防ぐことが可能となります。

2. 今後の目標

今回の分析により、後期高齢者では予防可能な疾病が医療機関を受診する主な原因となっていて、年齢が上昇するにしたがって入院者の割合が増加していることが判明しました。沖縄県後期高齢者医療広域連合では分析結果を踏まえて、関係機関との協力のもとにきめ細やかな保健事業を行い、疾病の早期発見・早期治療・重症化予防に取り組み、被保険者の「健康寿命の延伸」を目指していきたいと思います。